MONO3198022901

朝鮮人

朝鮮總督府學務局

登録番号	888
分類番号	
図書番号	

朝鮮人

目次

第一　總說……一

1　地理的攷察……二

2　地質的攷察……四

3　人種的攷察……五

4　言語的攷察……五

5　社會的攷察……七

6　歷史的攷察……七

7　政治的攷察……八

8　文學及美術的攷察……九

9　哲學的攷察……一一

10　宗教的攷察……一一

登録番号	二　一頁 888
分類番号	
圖書番号	

11 風俗習慣よりの攻察……一二
第二 各論……一三
1 思想の固著……一三
2 思想の從屬……二〇
3 形式主義……二六
4 黨派心……三一
5 文弱……三五
6 審美觀念の缺乏……三八
7 公私混淆……四三
8 寛雍、鷹揚……五〇
9 從順……五四
10 樂天的……五六
第三 餘論……六〇
第四 後論……六四

부산대학교 도서관
1967 5 9
105486

대한민국 국회
도서관 장서

朝鮮人

文學博士　高橋亨

第一、總說

朝鮮人も獨立民族として一千年以上の歷史を有し一萬五千方里の地域を占有する以上、自ら養成し來れる民族的特性あること他民族と異るなかるべし。然れ共凡て民族の特性は之を局限せる狹隘なる觀察を以て孟浪に斷定すべきにあらず。宜しく其の民族の構成せる社會をば一の生活體と看做して其の一切の機能を研究し其の結果を綜合して然る後何等かの結論に到達すべきものなり。然るに現在朝鮮の研究は種々の篤學者が各自部分的に著手して其の結果の幾分を發表せるものあるも　之を日本支那の研究に比較すれば量に於て質に於て尙同日にして語るべからず。余は從來朝鮮の思想及信仰即文學と哲學と宗教との研究に從事し是一面に於ては多少の結果を收め又斷定の自信を有すと雖人種學、考古學、地質學、美術史の方面には殆ど門外漢なり。されば假令余の研究の結果に基きて朝鮮人の特性は云々なりと結論するとも、是等の研究者が却て然らずと否定することなきを保すべからざるなり。然れ共竊に思ふに、文學、哲學、宗教は少くとも民族性

の根本よゝ發生し是に由りて益々其の特性を培養し現今尙朝鮮人の精神現象の原動力たるものなり。是一面より觀察せる特性は他學よりの結論と對等以上の實在的價値を有す。完全に言へば朝鮮人の特性を覈明せんには以下の諸方面に渉りて研究せざるべからず。1地理的、2地質的、3人種的、4言語的、5社會的、6歷史的、7政治的、8文學的及美術的、9哲學的、10宗教的、11風俗習慣俚諺物語の十一方面是なり。其中地理的地質的人種的及言語的方面は之を靜的方面とも謂ふべく、民族の構成せる社會の生活的活動の基礎なり。爾他は之を動的方面とも謂ふべく、民族の生活的活動の殘せる成績なり。是等靜的動的方面より觀察して朝鮮民族が果して他民族に比して特性ありや、特に我日本人に對して較著なる特性存するや、是れ本論文の研究點なり。余は先づ余の狹き知見に基き最簡單に如上十一方面に於ける特異的表象を擧げ試み、然る後是等を綜合して民族的特性を各論せんとす

1、地理的攷察

朝鮮人の居住地は其の盛衰に依りて境域に多少の變更を見しと雖、大體現今の半島を以て區域となせり。即極東は鬱陵島にして東經百三十度五十四分。極西は鴨綠江口薪島の西端にして東經百二十四度十三分。極南は濟州島の南端北緯三十三度十二分。極北は咸鏡北道の北端北緯四十二度二分なり。古來其の北邊は北方の胡人若くは支那人と境を接し、南は一衣帶水を隔てゝ日本と相望み、西方は波濤靜なる黃海を挾みて支那本部と對す、全部温帶圏内に在りて中部以南は甚しき氣候の變化を見ず。西北部西南部東南部一帶は土地平

대한민국 국회 도서관 장서

衍にして水利に富み地味亦肥沃早くより居民農業を習ひて生事の大本となしたり。西南兩面の海洋自ら外國との交通を困難ならしめて通商貿易の事興らず。朝鮮の地理的攷察に於て著しき點は其の北部胡人と境するに長白山脈と鴨綠、豆滿の二大江を以てし、西部支那本部と黃海を隔て南部日本と玄海を挾むに在り。北方の大山脈は能く朝鮮人の爲に胡人の侵入を障遏せりと雖、二江の口は土地平坦にして優に人馬を駢ぶるに足り、胡人强ければ其の北方高地より攻め下る勢をば到底防ぐてと能はず。況んや支那の國運盛にして滿洲を其領土に編入せる場合に於てをや。西黃海は稍々航路長く海軍の發達を見ざりし支那は之を横りて兵を朝鮮に動かすは長策となさゞる所なり。之に反して玄海は壹岐、對馬を飛石にして本土九州呼べば應へんとす。若し朝鮮强からば南下して勢力を我に奮ふべく我强からば北上して半島を侵すべし。されば朝鮮民族の一獨立國民として安穩なるべき場合は北胡の勢盛ならずして鴨綠豆滿の警備事無く、支那の力滿洲に及ばずして燕遼は之を夷狄に委し、日本國内多事にして玄海に兵船を進めざる三要件具備するの時なり。而して是等三件の圓具は甚だ望み難し。是に於てか或は南日本の制を受け、或は北滿洲に降服し、或は西支那の正朔を奉じ或は成鏡道に鎭臺を置きて以て北守の計を成せり。而して朝鮮歷史中最長き年代は支那の屬國たりし時代なり。是れ地理的に必然なる結果なり。日本にして若し陸續さに在りせば形勢に於て大なる變化を見してと勿論なり。

地質的に攷察すれば朝鮮半島は殆ど全部古生層に屬し、第三紀層第四紀層に屬するもの極めて少し。理學博士井上禧之助氏の地學雜誌に載せたる論文韓國の地質及鑛產は之を述ぶること詳なり。此に據れば朝鮮半島の基盤を成すものは太古代の片麻岩にして之に伴ひて花崗岩の大噴出あり。其の頒布廣く全半島の過半を占め、中生層は僅に慶尙道に大區域を見るのみなり。されば第三紀に入りては朝鮮半島の外形已に形成せられ其の發達は僅に東海岸小區域に限られ、第四紀層は河岸若くは海岸に段丘若くは平地をなし、火山岩として は玄武岩流の北部に大區域を占むる外、安山岩玄武岩の小區域に岩流若くは岩脈をなして露出するを見るのみなり。斯の如くなれば、朝鮮の地質は其の生成極めて太古に屬し、人類發生時代に至りては地殼の變化は既に終りを告げ、極めて靜穩なる土地となれるなり。之を我が本土の第三紀層第四紀層に依りて大部分構成せられ、今尙盛に地磐の變動を見つゝある者と比すれば動靜定變の差著しきものあり。

3、人種的攷察

朝鮮民族は果して何種族を以て主體となし之に何種族が混ぜるか今日尙未だ權威的研究の成果を見ず。恐らくは至つて難解なる問題なるべし。されど共少くとも其の滿洲に住居せる「ウラルアルタイック」の扶餘族と半島中南部に住せる韓族の混合より成ることは疑なし。而して漢代より漢人種が支配者として來りて其の文化を傳へ又幾許か其の血を混ぜしめたり。南倭人との血族的關係は今尙積極的に之を明むること能はずと雖も、日本に韓人の歸化せるが如く盛に倭人の朝鮮に移住せりとは信じ難し。僅に南方慶尙道の一部に倭人の

대한민국 국회 도서관 장서

血の流れ入りし外大なる混血を見ざりしならん。今日傳はれる朝鮮古民族の特性としては禮讓を好み爭を好まざる一事分明なり。山海經に東夷を記して朝鮮に及び君子國在二其北一。衣冠帶劍食レ獸。其人好レ讓不レ爭。と云へるに見るべし。

4、言語的攷察

朝鮮語學の研究も亦今尙混沌たり朝鮮語を解する日本人其の數乏しからずと雖能く三國遺事に載する新羅時代の歌を讀み得る者なし。朝鮮語の歷史的研究未だ其緒に就かず從つて朝鮮語典の研究亦權威となすに足るものなし。或は朝鮮語を以て日本語と同起源となし或は蒙古語と同系となす。何れも根本的に組織的に全體を研究して立てたる學說といふべからず。余は朝鮮語學は其の人種學と共に權威的研究の現るゝは尙前途遼遠なるを思ふ者なり、され共朝鮮語の特質として其の語法日本語法と等しく添着式(アグルーチネチブ)にして洋語支那語の如く屈折式(インフレクショナル)ならざること。及語の構成の本來に於て社會に階級的思想を認め同一意味をば對話者の身分に由りて或は敬して表し或は賤みて表し或は中性に表すの二要點あるは動かすべからず。言語の添着式なるは屈折式なるに對して民族性上如何なる差別を生ずべきか予未だ定見を有せず。又言語學者間にも定說なしと雖、言語に階級思想を表現するは朝鮮が抑も朝鮮語を國語となせる當時より早く既に社會に階級存在して民族の各員も階級あるを以て當然と惟ひ做せるを證するものなり。

5、社會的攷察

此に社會的攷察と云ふは最狹義の意味にして、朝鮮人の集團たる朝鮮社會の組織と單位と其の統制的理想を謂ふなり。

朝鮮社會は人も知る如く治者、被治者、及賤類の三種を以て組織す。治者は文武の士分被治者は農商工民賤類は奴婢、伶人、喪擧丁、鞋匠、白丁、妓、巫覡、僧侶の八類なり。是等の社會的階級は其の起源を知ること能はずと雖、士類は卽社會勢力の歸宿する所、常民は社會生產力の在る所、賤類は生產に效用なき雜業に從事する者なり。されば常民は士類を養ふ者、士類は常民なる賭物を爭ふ者なり。是れ前に言ひし言語に階級性あると一致して朝鮮社會の一大特質なり。既に大特質なり、故に能く之を永遠に保存して以て今日に及べり。

朝鮮社會の單位は箇人に非ずして家なり。一夫一婦に由りて組織せらるゝ箇箇の小家に非ずして一夫婦の源頭より發して數個數十個の小家に分化開展しつつも是等數個數十個の小家全部を包容して一家と視做す所の大家なり。朝鮮社會の勢力の歸宿所は士類に在り。士類の一々の大家に在り。勢力の競爭は大家と大家の競爭なり。既に社會組織に階級の存在を認容す。卽ち社會を統制する所の一般的希望切言すれば朝鮮人の生活上の理想も從て定まる。賤類は姑く之を措き、常民の理想は士類の生活に在り。生產的境遇よりして勢力階級に向上するに在り。十類の理想は仕官して厚祿を獲高位に登り以て我が家の風を吹かし我が家の光を輝かすに在り。

6、歴史的攻察

朝鮮歴史は獨立的國家の歴史としての價値なし。約二千年を通じて内訌に非ずんば隷屬の歴史に外ならず。從て朝鮮人全部が仰ぎて以て理想的人物となす民族的偉人の出現せるを見ず。若し强いて朝鮮人の誇となし渇仰する歴史上の人物を索むれば彼の平壤に來りて朝鮮を開けりと信ぜらるゝ殷の箕子其人ならんか。箕子の朝鮮人に非るは最も善く朝鮮歴史の國民的價値乏しきを表象せり。されば朝鮮人自身も自國の歴史は頗る之を輕視して不必要學となせり。朝鮮の正史としては三國史記、高麗史を第一種とし三國遺事、東國通鑑、東史會綱、國朝寶鑑等を第二種となす。何れも朝鮮に在りては希覯の書籍に屬す。京鄙の藏書大家の外は尋常讀書子の手にする能はざる所なり。之に反して資治通鑑綱目は則如何なる山間僻村と雖苟も書堂の設ある處には讀まれざるはなし。されば朝鮮の讀書兒は新羅太宗の三國統一の事蹟を知る前に漢末三國鼎立して曹操、劉備霸を中原に爭ふことを知るなり。恐らくは多くの兒童は新羅太宗の偉業は一生學ばずに過ぐるなるべし。彼等は既に自國の歴史を學修せず。故に自國歴史に就て得る所の知識は好事者が筆に任せて斷片的に摭錄せる奇事怪聞に滿てる野乘か然らざれば口々傳へ來れる誇大にして年代を無視せる史的物語に過ぎず。歴史の第一要素たる何故に起り如何に結果せりと云ふ史的因果に關しては全然沒交渉なり。

7、政治的攻察

朝鮮の政體は新羅統御以後約千三百年を通じて君主專制なり。君主專制なれ共屬國なれば王と稱するに過

ぎず。されば其の制度法典の如きも多く支那の模倣に出づ。支那は元來形式的の國風なり。法令制度は能く典籍に具備して其の實机上の文具に過ぎず。人民は之に頓着なく鄕國の慣習を以て生活を律す。況んや彼我の國情の相異を攷へず漫に模擬して以て我が令甲制度となせるをや。されば朝鮮の行政は畢竟制令を以て空文となし其の實治者の良心と利害との判斷に依りて適宜施行せられたるものなり。

然れ共此に支那の政治狀態と全く相異るは新羅、高麗、李朝を通じて未た嘗て中央權制を失はず從て封建藩鎭の制度は遂に見るを得ざりし事と、政治的理想を儒教の政治學に置きながら王朝の交替支那と比較して甚だ罕にして一千三百年間僅に三姓を更へしに過ぎざりし二點となす。既に鞏固なる中央集權なり。故に政治上の大問題は內治に非ずして外交に在り。內に向ては不逞の徒料外の不軌を企つるあるとも未だ容易に國祚を動搖せしむるに足らず。外支那、北胡、日本に向ては所謂事大綏撫交隣の三大方針の下に幾多の王者宰相が苦心慘澹たりしものなり。されば政治家の能力も內統上の施設卽富國强兵の大策に對して經綸を立つるよりも事大交隣の外手段を練磨するに於て多く其の發達を見たり。

8、文學及美術的攷察

現今殘れる朝鮮の古美術は支那人の手に成れるものと朝鮮人の手に成れるものとの區別尙未だ明ならず。恐らくは北部江西の古墳の壁畫の如きは支那人の手に出でしに非るか。南部の石造の佛敎美術は朝鮮人の作なるてと疑ふべからず。予は比較美術の眼識なきが故に其の支那に於ける唐朝の製作物に對して果して如何

なる關係に在るか幾許の創作的技術を示せるかを判斷する能はざるを遺憾とすると雖、恐らくは其の材料を石殊に花崗石に取りし以外に朝鮮獨得の樣式技巧を示せるものは極めて少なからん。然れども兎に角新羅朝に在りては彼が如き傑作を殘す丈の美術的手腕ありし民族が一旦佛敎の衰亡するに及びては其の技巧全然地を掃ひて空しく俗惡なる佛敎繪畫のみとなれり。少くとも三百年以來の朝鮮人は審美的情操の價値を認めざりしものなり。視覺を刺戟する强き色彩以外に高尙優雅溫藉なる色彩あることを知らず。一定の樣式を備へたる實用的建築器具以外風韻を知らざる民族となれり。

文學に至りては其の形式幷に思想共に支那文學の型を脫すること能はず。其の固有の文字として吏讀、諺文の二種ありと雖古來曾て之を用ひられたる價値ある文學あらず。形想共に支那の模倣なるが故に文學の天才の出づるなきに非るも其作遂に支那を凌駕する能はず。文學は民族性情の粹美を表するものなるが故に其の徹頭徹尾模倣に終れるは畢竟朝鮮民族の全然精神的に支那に呑まれたる結果なりと謂ふべし。

既に朝鮮の文學は支那文學の模倣なり。故に其の形に囚はれて想に伸ぶること能はず。上乘文學の通有性たる至情を流露して自ら讀者を動かすもの少し。但し恐らく彼の新羅朝國運盛なる頃は必ず吏讀を用ひて寫せる民族詩歌の我が萬葉の如きものありたるべきが、惜しい哉今傳はらず今傳はれる二三は之を讀むこと能はず。朝鮮の文學は美術と共に頗る貧弱なり。

朝鮮に哲學の入りしは高麗忠烈王の朝朱子全書の將來せられて太學に於て研究せられしに始まる。其以前傳はりし佛教の華嚴宗、天台宗、乃至三論宗、唯識宗の如きも之を廣義の哲學中に含ましめ得べしと雖、何れも宗教的信仰を起して安心を得んが爲の正眞知解を目的とするが故に狹義の哲學とは謂ふべからず。佛教以外の朝鮮民族在來の人生觀は素朴的ながらも存在したるべきも今之を繹ぬるに由なし。されば朝鮮に於て純粹哲學卽形而上學の研究せらるゝに至れるは朱子學の輸入を紀元となさゞるべからず。

朱子學は其の性理學の方面は佛教殊に起信論禪學の哲學的方面の教義に儒教の皮肉を被らしめしものなり。朱子學の實踐的方面に至れば勿論孔子、曾子、子思、孟子等の儒教の先賢の倫理說を遵奉すると雖倫理の根本原理卽理氣說太極說に至りては佛教の佛性と薰習無明第九識第八識の翻案に外ならざるなり。されば佛教を以て國教と立てる當時の朝鮮人には朱子學は極めて入り易かりしなり。

されど其支那に於ける儒學の學派は朱子一派に非ず。當時既に之と對抗せる陸象山あり明に王陽明あり老莊の學亦一部の思想を支配せり。獨り朝鮮は一度朱子學を奉ぜし以來他の學派には一顧を與へず反りて之を異端視して排斥せり。哲學は純理の學なり自由討究の學なり。其の性質上一原理打立てられば更に一段向上せる原理の建設を企劃する者現はるべきものなり。獨り朝鮮に於ては曾て此事なし。約七百年間朱子學の理氣二原理の學說に滿足し之に盲從して他に合理的哲學なしと信せり。朝鮮の哲學には進歩なく發達なし初より化石せり。

新羅高麗時代の佛教は支那に於て成立せる一切の宗旨を將來して各派其長所を顯揚せり。されば共高麗を經ふる迄朝鮮的佛教宗旨の發生を見ずして已めり。外國宗教は必ず其國の國情の何れかの部分に契合せざる點あるが故に其の行はるゝの久しきに至りては必ず其の國家社會に適應して之に化融せる新宗旨の起るありて始めてよく國教として不朽の生命を得るなり。朝鮮には終に朝鮮佛教起らざりき。高麗朝に至りて華嚴宗の一派にして元曉の海東疏を所說とするものを海東宗と稱するの事あり。是宗を以つて朝鮮佛教となせる觀あり。然れ共華嚴宗の一宗として立てるは新羅の高僧義相の入唐して二祖知儼に該宗を受けて還れるに初まる。之を疏元曉大德の開教とはなすべからざるなり。高麗普照國師の曹溪宗の開宗も臨濟禪を本として之に華嚴頓宗を副的に添配し教宗を禪宗に攝せるに過ぎず。畢竟唐の李長者通玄の華嚴論圭峯の禪源都序を原典とせるものなり。是點に於て朝鮮佛教は其哲學文學と等しく獨創的性質を缺如せるものなり。

李朝に至りて佛教は麗朝極盛の反動來り破壞的抑壓を蒙むるや太宗を經て世宗成宗燕山君に至り全く其の社會的存立を失却せしめられ唯だ寺刹の殘骸を留むるを許されたり。然るに斯かる絶大なる迫害を加へられながら僧侶若くは信徒中敢て殉教的精神を發揮して以て此の政府の横暴なる教政に反抗を試みし者なく、皆俛焉として抑へらるゝが儘に「削らるゝが儘に」縮まり蹙まりて以て僅に氣息を維ぎ來れり。羅麗兩朝七百年培養せる崇佛奉佛は此に至りて何等其の力を現はさゞりき。是れ實に奇現象と謂はざるべからず。畢竟朝

鮮佛教は佛教を以て政治的福利を與ふるを信ずる王者の歸依と外護とに賴りて弘布せられたる者なり。平民間に信者を獲て終に王者迄化導せるには非るなり。其の根據全く王者に在りて存す。されば一旦王者にして歸依を罷め外護の手を去る時は木を離れし蔓の如く自ら支ふる能はず地に匍匐ひて僅に枯死を免るゝのみ。況や王者に反抗せんとする氣力をや。朝鮮人は政治萬能の民なり。政治的權力の發動に對して總べての社會力は之に抵抗する能はざるなり。

11 風俗習慣よりの攷察

李朝に入りてよりの風俗習慣の特色と見るべきはよく儒教の教義を實現せるに在り。李朝五百年の政治は如何にして全社會をして儒教の理想に合致せしむるを得べきかに最大なる努力を致せり。二百年間黨爭の用に供せられし禮論は卽此の意味の爭論なり。冠婚喪祭の四大禮一鄕一族の規約何れも儒教の教義に準則せざるはあらず。されば之を、我國に比較すれば宛として支那風を模倣せる王朝時代の風俗習慣に類似せるものあり。人民の思想亦是以上に進まず。恐らく今日世界に於ける最古き風俗習慣を維持する人民の一なるべし。故に彼等は尙各種文明機關を利用し文明的施設に順應すること甚だ困難なり。同時に其の反面に於て儒教主義の行はるゝ社會の美點と中世時代の美風を存し、禮讓、敦厚、質撲、安分等人間生活に餘裕ありし當時の殘影を留む。

1、思想の固著

以上十一方面より略ぼ朝鮮人を攷察し來りて是等の綜合上より其の一般的特性を繹ねんとす。

第一を思想の固著となす。固著性は流動性の反對なり。朝鮮人が一度或思想を受容して此を我が思想となす時は何時迄も之を把持して喜びて其の權威の下に在るを謂ふなり。而して之を認容する當初の動機の如何なるかは問ふ所に非ず。或は從來なかりしもの新に入り來りて其思想界を占領せるあり。或は政治的强力に由りて受容すべく强制せられしもあり。或は權威ある學者の言行より出で、廣く一般思想となれるものあり。何れにもせよ一旦認容せる以上後に至り別に新しき思想の將來せらるゝあるも此に向て流轉する事なし。

之を朝鮮の宗教たり佛教の歷史に觀るに、其の始めて將來せらるゝや、殊に新羅に在りては種々從來の禮式、風俗、信仰と相容れざりし爲頗る流行に困難せしが一旦王者の歸依を得るや、高麗、百濟、新羅の三國との一齊に風行して上下貴賤擧げて信仰せざるはなきに至れり。然るに地理的關係よりして朝鮮佛教は凡て同時代の支那佛教の宗旨を傳へたり。されば新羅盛代には隋唐に於て成立せる宗派は盡く之を傳へ三論、法相、律、華嚴、天台、攝論、涅槃、念佛、禪、地論、密教、俱舍、成實の十三宗對立の盛況を呈せり、此の內攝論、地論、俱舍、成實の四宗は高麗朝初期恐らく新羅末に於て已に滅びしが如しと雖、涅槃宗以外の

宗派は依然存續して高麗晩年李朝初葉に及べり。涅槃宗も實に宗學として高麗中世迄存せり。之を支那及日本の佛教史に觀るに、三論涅槃の如きは早く唐末に滅び華嚴宗天台宗も宋以后は甚だ振はず。殊に日本に在りては常に新しき宗旨は舊き宗旨を壓して終に純日本佛教と謂ふべき眞宗、日蓮宗の發生を見るに至れり。朝鮮佛教は實に能く古宗旨を傳へ保存せり。されば支那越王錢僇は高麗に古佛典を求めて以て纔に華嚴天台の經典の湮滅を恢復せり。李朝に至りて歷代斥佛の方針を持して動かず。世宗に至りて禪、教單二宗に減宗し佛籍亦滅びて索むる所なきに至り、唯だ海印寺の大機經板が國寶として麗朝君臣の崇佛の雄大なるを語るのみ。麗藏中朝鮮高僧の撰に係るものは元曉、諦觀二師の數種あるに過ぎず。

之を儒學に觀るに。高麗忠烈王の二十七年安珦晦軒が始めて朱子全書を燕都に獲て其の三月之を開城に將來して聖學の本旨此の外に出でずとなし朱子學を唱道し終に高麗太學に朱子學を講せるより以來六百餘年今に至る迄朱子學以外の學派の興るを見ず。明に至り王陽明の學起るや其の全書亦夙に朝鮮に傳はり。明宗朝の李退溪も之を見るに及び、其の他李栗谷、柳西厓等の諸大儒亦何れも之を讀まざるなしと雖、獨り柳西厓一人の稍や寛大にして痛擊を加へざるの外皆以て異端邪說となし其の書すら一般に讀まれざらしめたり。後清朝起りて考證學派盛となるや其の著書亦往々京城に將來せられざるに非ず。されば共純祖朝の詩書の大家たる阮堂金正喜の外は其の流を掛む者なく、學者は何れも考證を以て聖學に無關涉なる閑事業となせり。されば高麗朝の儒者の著述は今日傳はる所のもの尠くして詳細を知る能はずと雖、李朝に至りて儒學卽哲學上

の大論爭たる李退溪奇高峯との四端七情理發氣發の論の如きも畢竟朱子學内に於ける見解の相違にして各朱子全書中の語句を擧げて以て自ら正しとなすに過ぎず。卽李退溪は孟子の所謂惻隱心、羞惡心、辭讓心、是非心卽仁義禮智の性の現るゝ四端は理の發にして純善なり。喜怒哀樂愛惡欲の七情は氣の發にして善惡相混ずとなすに對して、奇高峯は四端は理發たるを肯ずれ共七情は理氣の共發なりと主張するなり。されば共二者ともに朱子の理氣二元論の範圍を出づるものに非るなり。斯の如く長年月の間思想上一原理に滿足して異原理の認容を拒絶せる民族は世界の思想史上稀有の事實なりと謂はざるべからず。されば宣祖朝の儒者張維の谿谷漫筆に朝鮮儒學の程朱子に固着して動かざるを平論して

中國學術多岐門徑不一。而我國則無論有識無識一挾冊讀書者皆稱誦程朱一。豈我國士習賢於中國耶。曰非也。中國有學者一我國無學者一。蓋中國人才志趣頗不碌々一以實心一向學故往往各有實得一。我國則齷齪拘束都無志氣一也。但聞程朱之學世所貴重一口道而貌尊之而已。不惟無所謂雜學者亦何嘗有得於正學一也。譬於墾土播種有秀有實而後五穀與稊稗可別也。茫然赤地之上孰爲五穀一孰爲稊稗一者哉。愚謂橫渠之早悅孫吳晚逃佛老一是何等志氣何等心力。惟其志氣豪邁故初入奇變之法。心力精深故再入清寂之道。及地夫過勿憚改一一變歸正天則卒値眞得力踐之功一。後世都無志氣一只事踏襲一者烏能窺測也哉。

と曰ひ朝鮮人の思想の固著を以て一に無氣力に歸せり。亦一隻眼ありと謂ふべし。

風水說の迷信にも亦善く此特性を見る。死者の墓地の相方に由りて子孫に禍福の果を來たすとの思想は新羅の末年既に其の萠芽を見、高麗李朝を歷て曾て衰へず。益々其の技術精微に進み、往々之を排斥する識者出でたりと雖社會の全部は頑として動かされず、今日猶大多數の朝鮮人は心の底には此の迷信を懷かざるは

非ず。曩に總督府共同墓地令を出すに當り人民の怨嗟の聲都鄙を傾けて囂々たるもの正に之を證す。

之を章服の制に見るに新羅朝の初未だ衣冠の制定分明ならず。佛教を行へる法興王の時に至り始めて百官公服の色階を定めたれ共猶唐制に符合せず。眞德王の二年唐の貞觀二十二年卽唐の文物最完備せる時代に金春秋を遣して入朝せしめ因て章服を改めて中國の制に從はん事を請ひ、許されて內庫の珍服を賜はり還りて乃ち衣帶唐制に則る。文武王の四年に至り又婦人の服をも改めて唐制に從へり。爾來支那に在りては五代、宋、元を經て章服の制亦大に變じ唐制復た見るべからざるに至れりと雖、朝鮮は羅朝滅びて麗朝代るに至りても依然として章服は舊制を襲踏し大要唐制を保存せり。されば高麗睿宗仁宗朝の金富軾は崇寧年間（宋徽宗朝）使臣劉逵、吳拭の來りて唐制の殘れるを驚歎せるを叙して曰く

宋使劉逵吳拭來聘在レ館宴次見二鄕粧唱女召來上三階。指二濶袖衣色綠帶大裙一歎曰。此皆三代之服不意尙行レ於レ此。知二今之婦人禮服蓋亦唐之舊一歟。

とあり元興りて高麗終に之に臣朝するや元の衣冠制に從はしめられ、忠烈王の四年二月境內をして皆元の衣冠を服せしめ辮髮を垂れしむ。十六年九月に至り百官始めて笠を著けて朝謁せり。然れ共元衰へて盜賊四方に起るや恭愍王は其の元年早く胡俗なるの故を以て辮髮を解きて舊制に還り十九年明太祖冕服を賜ふ。然れ共李朝に至りても百官の章服は尙高麗の古制に則りて幾分唐制を留む。皇淸職貢圖に 朝鮮國官俱因二唐人冠服一

朝鮮人の衣服の制度は李太王の甲午年中閔泳翊の上疏に依りて濶袖を切りて筒袖となせるの外は其制古來較著なる變化を見ざりしが如し。殊に服色素を好むは其の由來極めて古く之を史に案ずるに三國志に

夫餘國在國衣尚ㇾ白。白布大袂袍諸履ニ革鞜一。

とありて高句麗、濊貊百濟の原種族たる扶餘族の衣色白を尚べるを證す。(殷は白を尚ぶ箕子平壤に來りて白衣を定む朝鮮の白衣は箕子の遺制なりと云ふは傳說的價値はあれ共信ずるに足らず)。新羅朝の庶民の服色は北史新羅傳に服色尚素とあり降りて宋史には

高麗士女服尚ㇾ素。

とあり。然らば則朝鮮民族の衣服の白色なるは扶餘以來の舊習にして新羅高麗李朝を貫き現在尚十の九は白色なり。色服を着るは兒童ならざれば京洛奢侈の時好の外なし。服色に於ても章服と同じく固着の激甚なるを見るべし。

朝鮮の國體の支那と同じく一代の最有德者が時の主權者の位に在るべきを理想となすに拘らず、千三百餘年間を通じて姓を易ふること僅に三。しかも其の易姓の際に於ても格別激烈なる爭奪の活劇の演せられしことなく殆ど力內に竭きて自然に斃れて而して他姓之に代れるの觀あり。李朝の晩年政法の腐敗彼が如く既に膏肓に入れるに拘らず尙取りて替らんとする旗幟を樹つる者なかりしは亦支那民性と契合せざる者あるを示す。而して是れ亦固著性を以て說明せざるべからず。現在の王家には不服にして弊政に苦むと雖、敢て之を

易へて新に王家を求めん事は朝鮮人の容易に想ひ到る能はざる所なり。遷延として數代を送りて新羅、高麗李朝各々四百年の國祚を保てり。

朝鮮の俚諺に「昔の法を變へもするな新しい法を出しもするな」と云ふあり。よく朝鮮人の思想の固著を表せり。實に彼等には改良と改惡との區別なく變改は卽絶對不善なり。不必要なり。昔の儘に同一軌道に循ひて云爲行動する生活を營む處に無限の快樂を感ずるなり。固より消極的快樂なれども兎に角此に自己の性情に適合する精神感動を生ずるなり。是の如き支那人以上の固著性の生ぜる原因何くに在りや。前に引用せる張谿谷は之を朝鮮人の無氣力に歸せり。無氣力は卽溫柔にして山海經の好讓不爭に合する者なり。疑もなく固著性と無氣力と溫柔不爭とは同型の性質に屬す。然れ共互に因果の關係に在りとは言ひ難し。例へば老齡者の性質に似たり。老者は其の特性として固著と無氣力と不爭とあり。而して其の原因は老にあり。予は朝鮮人の此の較著なる特性を有するに至れる主原因は朝鮮半島を構成する地質に在るに非るかを思ふ者なり。前に地質的攷察に於て述べし如く朝鮮半島の地盤は極めて古代に屬して既に現世代には其の變化と發達とを止め終始靜隱にして無事無爲なる時期に在るものなり。煙を吐く山なく火を吹く穴なく、山岳を崩し地を劈き海を搖かす地震なし。之に生ずる植物も新しき地層に屬する土地と異り生長も遲く種類も少く葳蕤の盛觀に乏し。之に加ふるに濕氣少き大陸氣候の爲に春時の花秋期の紅葉も絢爛の美を發揮する事能はず。四期恒に沈著の色彩を帶ぶ。斯の如き地上に棲息する民族は他地盤の變化多き地に棲む民族に比し自然に何時ともなく

之が感化を享けて氣象靜穩となり。變化性乏しく安きを守りて危きに進まざる性情を養成せらるゝは勢免れざる所なり。現在活きたる實例として朝鮮に長く在住して特別の修養を積まさる日本人は何となく內地に在る日本人に比して動的性質を減殺するの傾あり。又數年間朝鮮に住して內地に還り內地の風光に接する時は其の刹那に何となく精神に一種の鼓動を感じて朝鮮在時の靜穩を破らるるの思するを擧ぐべし。但し朝鮮人は固著性ありと雖同時に無氣力なるが故に一度强力なる意志卽政府の命令に依りて變革せしめらるゝ時は容易に一朝に其の思想を革めしめられ又其の革められしが儘に復舊の政令出でざる限永く之に固著するなり。

朝鮮人の思想の固著は李朝太祖より世宗にかけて儒敎を以て人民の信仰及思想を統一せるに至りて一層其の根底を固くせるが如し。儒敎は理想を過去に眞く所の敎なり。儒敎の黃金時代は堯舜の治世にして爾後永久に再現せられざりしなり。されば是敎を奉ずる民衆が常に過去を懷ひて之を憧憬し凡て古きを以て善美の表象と惟ひ倣し變化更新を以て罪惡と同じく思ふ傾きを見るは勢免れざる所。朝鮮の如く儒敎を以て國敎とし國民道德の根本と定め社會精神の全部を此の範型に容れて鎔冶せる國に在りて民象が思想上の固著性を一層强めらるゝは當然なり。而して李朝の中世以後政治腐敗するに至りて益々此特性が百姓間に强く現はるゝに至れり。何となれば是頃に至り官府より新に出さるゝ所の施設は何れも益々百姓を侵虐する者ならざるはなければなり。百姓は從來の政治を以て希望に副へる善政なりとは思惟せざれども、之を變更して何等か新しき施設下る時は必ず惡より一層惡に一層惡より最惡に進めらるゝが故に、願ふ所は單だ苦痛の尙比較的少

き古の施設を其儘に變革する事なからんに在り。

或者謂。近日民俗傷敗凡有一新令一易レ致二騷擾而激變一。此亦不レ然。夫使二レ斯民傷敗而梗化者一誰之咎邪。不レ制二其產一故ドノ之人無レ恒二厥心一。

とあり一令出づる毎に百姓は蹙額して新に災難を增すとなし極めて嫌忌せり。

2、思想の從屬

第二を思想の從屬となす。是れ一切思想に於て支那に從屬して何等朝鮮的獨創思想を視做すべきものゝ發生を見ざりしを謂ふなり。語を與へて事大主義と謂ふも可なり。朝鮮史を研究する人は朝鮮が政治的に支那に從屬せるを云ふ。されど共予は政治的從屬よりも思想的從屬を以て一層其の程度大なりとなす者なり。新羅朝にては唐の正朔を奉じ唐の保護國たりと雖文武王の既に安東鎭撫大使李謹行總管薛仁貴に克ちてより新羅は全く獨立の行政を許され唯だ名義上唐に朝貢するのみなり。高麗の宋遼に對する亦然り。封冊を受け正朔を奉ずと雖內政に至りては些の干涉を受くる事なし。獨り元の武力を以て高麗を征服するや、名實共に屬國となし元より高麗統監を派して嚴に內政を監督し往々意に協はざる王あれば之を廢し之を執らへて宛ら國內の一大官を易置するが如くしたり。元亡びて明代るや復た宋朝の昔に返り名義のみの奉朔國となれり。清朝は元と同じく朝鮮を征して城下の盟をなさしめしと雖爾來朝鮮を待する事明朝より嚴を加へず。名は屬國にして實は自治國たり。されば朝鮮の眞に支那の屬國として內政に迄制を受けしは高麗の元宗元年（千二百六

十年）より恭愍王の初年（千三百六十年頃）迄前後合計百餘年間なりとす。然るに思想上の從屬關係は斯かる短き期間に非ず。抑々支那と交通始まり其の文物を輸入せしより李太王の甲午年（明治二十七年）迄千五百年以上全然支那に從屬して終始せり。其の宗教、哲學、文學何れも範を支那の其に取りて終に朝鮮人の獨創に係るものなし。縱令創作的產物なりとも畢竟一般に行はるゝに及ばずして已めり。

朝鮮人は日本人と同じく支那人の所謂東夷に屬し其の固有文明は極めて低度に過ぎず。但だ日本よりも早く支那の文明に接觸して極力之を輸入し先づ三國時代の高句麗陸路より北方支那の文明を受け入れ、次で百濟海路東南方の文明を輸入し、最後に新羅二國の後進を以て三國を統一し極力唐の文物を學びて以て東海の一開化境を成せり。然るに朝鮮の地理的關係と民族の中想思心なきとの爲支那文明輸入後の國情全然日本と相同じからず。全く己を捨てゝ彼を模するに至り、思想上には朝鮮の特色を喪ひ終に再度之を生ぜずして止めり。

第一に言語に就きて觀るに、朝鮮語に於ける漢字の位置の重要なる事は日本語の比にあらず。日本語は近來こそ西洋の新思想を寫す爲に種々漢字語を考案して純粹日本語にては言ひ表す能はざるものありと雖、在來は漢字を假らず純粹日本語のみにて普通知識の階級は用を辨ずるに困難なかりしものなり。然るに朝鮮語にありては漢字語の外に復た朝鮮語なき所のもの尠からず寧ろ其の多きに驚くなり。朝鮮語より漢字語を取り去れば殆ど日用市井の對話さへも不成立の結果を見る。是れ畢竟永き間支那を模倣するの極在來朝鮮語を

棄て丶使用せざりしの致せる結果なり。朝鮮にては漢字に音ありて訓なく漢文を讀むに棒讀を法とするも亦同じく此の原因に歸する者にして畢竟彼を我に同化するの能力なく只管彼に沒入して終に我の所有をも喪失するに至れるなり。

朝鮮文字に吏讀と諺文とあるは恰も我に萬葉假名と平假名片假名あるが如しと見るを得べし。勿論日本の假名は漢字の略體にして朝鮮の諺文は梵字の系統を引くの差はあれ共能く單なる表音字形に依りて國音を寫し又能く漢字と調和し兩立して使用せらるゝの重要點に於ては全く相符合す。吏讀は新羅の薛聰の考按と傳へられ萬葉假名と同工異曲漢字の音或は意味を取りて朝鮮語音を表せるものにして之を朝鮮考案の新文字とは稱すべからず。之に反して諺文は頗る進歩せる表音文字にして能く複雜なる音を寫し又父音母音子音の組織整然として一絲紊れず長大なる音を一組合に依りて表し表音文字たると同時に單意語文字に彷彿たる作用をなす。洵に朝鮮の產物中に於て極めて優秀なるものに屬す。其原體は梵字に在りて恐らく高麗朝僧侶の間に早く經文讀方の表音用として行はれしならん。李朝世宗の二十八年訓民正音を頒布して之を一般に通用せしむる事となれり。然るに朝鮮に在りては諺文の使用甚だ局限せられ全然士君子の用ふべきに非ずとなして單に無教育なる婦女子か無學なる下民間に行はれしのみなり。朝廷にて佛經の諺解經書の諺解等を開刊せる事屢々なりと雖亦是れ無學の下民に讀ましめんが爲に編纂せられしものなり。以て李太王の甲午年に至り是年始めて官報に諺文を混用する事となれり。されば諺文にて書き做されたる文學なく、諺

文の起原法則を研究せる學者なし。獨り大院君早くこれに著眼して諺文をして眞の朝鮮人通用の文字たらしめんと企てたりと傳へらる。實に其の卓識曉天の一巨星の如しと謂ふべし。されば斯かる誇るべき文字も朝鮮の文學史思想史には何等重要なる價値なく、單に漢文さへ讀み得れば輙ち朝鮮の文學及哲學は略ぼ遺憾なく研究せらるゝなり。

第二文學亦然り。千數百年來單に漢文をのみ文章と考へ詩歌と考へ朝鮮國文體の創始せらるゝなし。日本の國文に當る文體なく、徹頭徹尾漢文を以て文學を成せり。李朝中葉に至り纔に諺文の小說多く出しと雖其は田夫野人か無學なる內房の婦女子の讀物たるのみ。且つ其等小說すら其の想は支那小說の剽竊か換骨脫胎の外に出づるもの幾許もあらず。有名なる春香傳の如きも西廂記の拙なる模倣にして金春澤の作と傳へらるゝ九雲夢の如きも全然支那的思想にして舞臺人物皆之を支那に取り朝鮮人の思想の特徵として視るべきもの甚だ少し。

第三制度亦然り。其最著しきは科擧の法となす。科擧は高麗光宗が支那人双冀の建議に基きて之を始め李太王の甲午年迄繼續せり。其間幾多の反對論の唱へられしに拘らず遂に廢せられず。科擧は利弊共にあれども要するに學問をして墮落して單に名利の業たらしめ自由研究をして起らしめず產業の位地を低めて富の發達を妨ぐるものなり。

第四宗教に就きて觀るに、佛教の三國に傳來する以前には祖先崇拜天地山川祭享の宗教的式典ありきと雖

未だ眞の宗教の成立を見ず。佛教の傳來してより始て之あり。佛教は新羅高麗二朝に全盛を極め其の反動として李朝に至りて抑迫を加へられ儒教之に代り所謂道德的宗教として四百年間人心を支配したり。正宗の頃より基德教悄々裡に宣傳せられ連年迫害に堪へて漸く信徒を增し、純祖の頃より崔濟愚の掬めたる東學教出で、愚民の間に非常に弘布し殆ど火の秋原を燎くが如き勢なりき。後李太王朝の大迫害に逢ひ一時終熄し統監府設置以來再燃して今日は天道教侍天教なる二教に岐れて信徒數約百萬を數ふ。以上朝鮮の四大宗教卽佛教、儒教、耶蘇教、東學教に就て觀るに佛教は其の極盛期は約七八百年の永きに亙りしに拘らず恒に支那にて開教せられ支那にて發達せる宗派を其の儘輸入するに止まりて一朝鮮佛教の建立せられしを見ず。朝鮮佛教史は卽小規模なる支那佛教史に外ならず。儒教は國教たる事四百餘年、今尙高等階級の信仰を支配すと雖是れ亦其の哲理的方面は宋儒の性理說を祖述するのみなり。所謂朝鮮名賢の諸學說は一として宋儒の舊套を超越せる者なし。朝鮮儒學史は卽低級なる朱子學史なり。基督教も亦予の寡聞なる未だ朝鮮教會の建立せられて西洋宣教師の說教以上に朝鮮化せる新教理を唱へんとせるものあるを知らず。恐らくは基督教と雖朝鮮に於て別種の發達を見ることなかるべし。東學教獨り稍や朝鮮獨得の新宗教たるが如しと雖、其の信仰の對象たる天主は卽基督教の唯一の神を竊みたるものにして其の教理は李朝末造僧侶の說を承けて儒佛仙三教名一を標榜す。畢竟耶蘇教の本尊に儒佛仙の雜色衣粧を着せたるものなり。其の經典とする東經大全を觀るも朝鮮人の特種なる信仰の源泉より出でたる新宗教たるに價する淸新なる思想を發見せず。三教合一を高唱す

れ共佛教に依る事最多く、其の宗教的實質に於ては極めて陳腐にして未だ以て宗教上に於ける朝鮮人の從屬性の特種例外となすに足らず。朝鮮の書朝鮮の畫亦然り。朝鮮の書は之を日本の書に比するに、漢趣に富み形劃整ひ書法に合せり。されど共單に支那風の忠實なる模倣者なり。支那の格法を脱却して一特致を出さんとの試を見ず。是の點に於ては予は寧ろ日本の書を取り、殊に日本の假名は支那の書風に對して優に一風を樹つるものなり。畫に至りては喋々を要せず。日本は支那に學びて終に日本畫を大成せるに、朝鮮は支那畫より入りて支那畫に終り、李朝に至りては畫風墮落して視るに足るなし。朝鮮人の思想上の從屬性顯著なるは一には其の地理的原因に基きて到底接境する大國の思想以外に出づる事を許さゞりしものなり。二には其の政治的關係に於て支那の屬國たれば思想上の理想も之を超越する能はざりしなり。三には大陸續なる朝鮮の自然の光景支那に彷彿たる者多く、島國たる日本の一種獨得の氣候風土を享有して到處に優秀なる山水花木を現すと大に異るに因るなり。四には日本が特異なる國體を有するが爲民族に思想上の不動中心點あり、永く外來思想に隷屬するを容さず、必ず之を日本化せざれば其の存在を許さゞるに、朝鮮は其の國體も支那と同じく民族的中心思想なく、水の方圓の器に從ひて形を變ずる如く、彼を我に化すること能はず我彼に化して終れるなり。

朝鮮人の獨創力に乏しく研究心豐富なざる固著性に依りて先入主となれる、支那より敎へられし知識を以て無上最善と信じ一切の現象をば此の前提に由りて判斷せんと努め別に新原理を創設せんとする欲求なし。斯くて朝鮮人は一般に最近まで支那思想の羈絆を免れんとする努力を起さずして經過せり。

3、形式主義

朝鮮人が形式主義なりといふは其の道德上及論理上形式を重じて而して往々實質の詮議を遺却するが故なり。道德の形式主義は儒教の特色にして四百餘年來儒教思想に由りて教育せられ儒教思想を以て社會を統制し來りし朝鮮人が此の主義の浸潤する所となるは當然なり。孔子は禮は其形より其情を以て實質となすと教へしと雖、末流に至りては禮の形卽禮と思へるが故に禮儀を以て道德の第一義諦となし、支那の道德をして形式主義に陷らしめ、儒教の眞髓は支那に行はれずして反りて日本に來りて始めて實現せらるゝの奇現象を呈するに至れり。朝鮮は儒教の利弊共に其の儘に支那に受けしが故に道德に於ても禮儀の形を以て要となし人心の深奥に道義の根蔕の存する事を遺れたり。孔子の告朔の餼羊を惜めるは其の形式の殘れるを嘉みすると共に古俗の泯びず人心の敦厚を保存せんとせられしならん。朝鮮人は告朔の餼羊は其の形式其の物に於て道德上大なる價値ありと認め、專ら形の追從に苦心して由りて以て却て純粹道義心の自然的發露を窒ぐを知らず。

李朝は各郡鄉校を以て文廟の祭祀と學校とを兼ねしめ、我が日本の風俗に例を取れば神社と寺院と學校との三者を併せたるに似て實に其地方に於ける信仰、情操、知識を包含せる民生教化の源泉なり。されば吾人日本人の思想より言へば、宜しく屋宇を宏壯にし器具を清淨にし地域を森嚴ならしめて以て此に入る者をして自ら敬虔の念の起るを禁ぜざらしむが如くすべきものなり。然るに事實は然らず。大成殿と明倫堂の二棟

と位殿と祭器を納むる東西庫は型の如く備はると雖、殿宇は傾側するに任せ、丹青は剝落するが儘にし、祭器は形を具ふるのみ粗製殆ど見るに堪へず。大門半は崩れて校直の住房不潔を極め、洗濯せる粗衣白布は遠慮なく大成殿の縁に乾かさるゝ有樣なり。些かの空地あれば邑民は之を侵畊して以て糊口の資となし、周圍の松林も盜伐の厄を免れざる事あり。春秋二期の釋奠の如きも一點森嚴恭敬の氣象なく、唯だ古代の道服を着けたる儒者輩が遠近集來して餓腸を肥やすの機會を作るのみなり。されば共鄉校は儒敎の國たる朝鮮に在りては重大なる標象なり。神聖なる伽藍なり。之を撤棄せば人心に與ふる惡感動意想の外に在らん。釋奠は民族的大典なり、之を罷めば社會の各階級を通じて痛き不快を起さん。即たとひ鄉校が荒廢し釋奠が形許りとなれりと雖、其の名其の形許なる其事物が朝鮮人には重大なる意義を有するなり。斯かる鄉校を有し斯かる釋奠を行ひて以て金甌無缺なる儒敎國なりと惟へるなり。

此と同樣なる現象を古來の官職に見たり。宣祖大王朝東人西人の政派起り次で南人、老論、少論、少北と四色に岐れてより末葉に至る迄、朝鮮程官界の獵官運動激烈なる國はなかりき。之が爲には排擠讒誣あらゆる手段を用ひ生死を賭して怪まず。無るに一度官職を獲るや、上は大臣宰相より下は郡守に至る迄官吏の列に入る者は決して事務を執るものに非ず。朝鮮人は事務と官職とは全無別個の物と認め居れり。官廳の事務は刀筆吏たる胥吏の視るべきものとし彼輩に一任して顧みず。日夜苦心する所は政爭に空言を臚列して人主を動かして以て位官の陞進せん事のみなり。即朝鮮人の生活の理想は官吏にして而して官吏といふは位階と俸錢な

り。事務とは全然沒交渉なるものなり。是れ抑も統監府以前に日本の顧問政治の善く行れたる所以なり。朝鮮の大臣次官等は由來官廳の事務は準官吏なる刀筆吏輩の執るべき者とす。日本の顧問の來りて事務の實權を取るあるも何等痛痒を感ずる所なし。事務は顧問と吏輩と協議して執行すべし我は最後に印を捺して決裁すべしとて何れも官廳事務の實權を顧問に與へて平然たり。されば官印は官吏の最重物件なり。大臣觀察使郡守は何地へ赴くにも之を座右より離さず。何となれば彼等官吏の事務は官印を捺するの外何物もなければなり。官廳の事務形式的となり增るに從て印益々其價値を加ふるなり。形式主義の結果官職と事務と分離し遂に朝鮮人に事務の財幹を具ふるものの稀少にして殊に兩班級の正官吏に於ては全無なるに至れり。一歩進みて官職位階の濫設となり賣買となり、京城の住民の半は是れ正何品何々官の空銜を有し、一方には事務に依りて生ずる道德材幹卽勤勉、敏活、組織的頭腦等は全く朝鮮官界に忘れられ、各省とも寥々として出勤者鮮く附近の驕兒等墻を越えて入來り縱に戲虐せり。是れ行政上の形式主義なり。

社會の道德衰へて形式主義盛となり形式に依りて以て道德の外形を維持す。されば形式主義は衰世に至るも比較的振ふを常とす。富める舊家が失敗して實力既に昔の樣なくして格式に伴ふ儀式作法のみ依然昔の俤を留むるが如し。朝鮮人の道德上の形式主義は輓今に至る迄渝らず。祖先の祭祀父母の葬儀壽讌冠婚の儀式より始め衣冠束帶の儀容に至る迄依然舊態を留め、又彼等も極力之を保存して以て道德第一義の實踐此に在りとなせり。されば共形式主義を固執するにも限あり、經濟的事情の制限を超えて形式を持する事能はず。最近に

至りて朝鮮人の形式主義も一部衰退せんとす。例へば從來の習慣に依れば、如何に困窮するも獨立せる門構なき所謂長屋住居は一家として體裁上肯せざりし所なるに、今は相應なる家柄の者も恬として長屋住居を敢てするに至れり。其他五六年前迄は垢著きたる外出衣は酷貧者ならでは著る者なかりしに今は垢著かざる雪白衣を著る者却りて注意を惹くに至れり。

道德上の形式主義と同種の經路にて理性上に形式論理を重ずるの現象を見る。即道德の實質を措きて專ら形式に顧慮すると同じく、理性の關係する範圍に於て理性の內容と謂ふべき新原理の研究發明には意と力とを用ひざるが故に、只だ從來信ぜられたる原理を前提として之より形式論理の法則に從つて辨證して結論を得て以て眞理なりと滿足するなり。されば朝鮮人の議論は政治論にせよ道德論にせよ前提は前賢の提唱せる原理に局限せられ之を適用して巧みに三段論法を構成するに過ぎざるなり。是の傾向は學者非學者有敎育者無敎育者を通じて顯著にして、一通の賜暇願辭職退職願を書くにも彼等の欲する所に任せば必ず何か古人の原理を借り來りて前提となし徐ろに自己の境遇を拈出して以て賜暇、辭職、退職を願ふの己むを得ざるを辨明して始めて止まんとす。斯く說き到らざれば此の一片の願書に對して未だ意中を悉さず願書の形を備へずとなすなり。從て朝鮮人は形式論理には容易に兒を脫ぐの美質あり。議論の實質は如何に己に不利なりとも對手の論況整然として形式論理に合する時は敢て之に抗爭せんとはなさゞるなり。

一切の道理を一應形式論理に訴へて試驗せざれば認容せざるの特性も亦此形式主義より派生す。朝鮮の思

想家は形式論理を超越せる絶對をば其儘に體得するの根機に缺く。元來哲學及宗教に在りて形式論理を以て了解せらるべき境遇は極めて低級に屬す。百尺竿頭更に一歩を進めて原理の原理絶對界に入りて是れ甚麽と工夫する時は既に形式論理の消息を離脱せる者なり。卽直觀に俟つの外なし。哲學上の悟覺は形式論理の推論を窮めて其道斷えたるを自覺せる後始めて豁然として現する所の最高精神作用にして形式論理の桎梏を脱する能はざる者には他界の消息なり。朝鮮の禪宗は頗る善く朝鮮人の理性に於ける此の傾向を證示せり。朝鮮の禪は日本及支那の禪と風を異にして純粹不立文字に非るを正統とす。新羅及高麗初葉の禪匠の禪風は今日之を徵すべき資料なしと雖、李朝盛代の大禪伯碧松、芙蓉、清虛三代師資の禪蹟に就きて研究すれば、禪と教と併習を本則とし可成禪家の公案をば理窟に訴へて解決せんと務む。千七百則公案の提唱の如きも日本禪家の徹頭徹尾言語道斷の宗風を維持するに對して之を華嚴の法界觀と對照して以て分晰し辨證せんとす。然らざれば彼等は公案を取扱ひ得て充分ならざるなり。更に咄々屠龍の高手を揮て分晰を離れ辨證を超越して公案の妙旨を其儘に直覺して以て心と公案と卽離して言はんと欲して言を忘るゝの境に到る事能はず。今日日本の禪客が朝鮮に禪なしと歎ずるは實に此に在り。淨土念宗佛亦然り。高麗及李朝に至る迄念佛宗の盛なりし事彼の如くして而して是宗の學僧の眞に念佛妙諦を會得せる者あるを聞かず。何れも禪家教家の念佛判斷に旨從して阿彌陀佛を自心卽是と解し念佛を以て寂惺の境地に到る所の方便にして坐禪觀法と同工異曲に外ならずとなす。是れ念佛宗の眞意に非る事論を待たず。淨土念佛宗は斯かる理論的宗旨の上に立つに非

ず、一向專念に彌陀を念じて彌陀の本願に心身を委して而して極めて容易に救濟せらるゝ所に教義を建立せるなり。決して華嚴宗禪宗の批判するが如き見自心彌陀の安心を求むるには非るなり。然れ共朝鮮人には此理論を離れて一向する所の超理的信心の根機を缺き、是非彌陀なるもの果して在りや何處に在りや心外に在りや心内に在りやと攻究して、心外には在るべからず、心内に在るべし、心内に在るが故に念佛は畢竟形式を異にせる坐禪なりと結論して念佛宗の活機を沒却するに至れり。

4、黨派心

何れの國を問はず多數人集合して社會を構成すれば自然に同臭相牽きて黨派を作るに至る者なり。殊に政治社會は個人的意見よりも黨派的意見を以て原動力となすものなり。然れ共朝鮮人の如く舊式の黨派心を抱きて主義主張に據るに非ず。家系、階級、信仰、利益を基として容易に輩固なる黨派を作る者は余未だ之を聞かざるなり。

李朝の宣祖以後の政治史は卽黨爭史にして現今に至るも尙兩班階級の人士は明白に各家黨籍を有し之を以て好惡趨舍を決する唯一の動因となす。縱令修養を積める儒者なりとも瀟落として物に芥滯せざる文人なりとも、一旦機會に觸れて其情を吐露する時は少論は老論を嫉惡し南人は最も老論を嫉み稍や少論を怨み少北は老少論南人俱に之を憎み老論は他三派を嘲笑して劣敗者となす。兩班階級已に斯く黨派心勁烈なるが故に之に追從して以て身生をなす所の階級亦自ら黨派を生じ施いて常民以下の賤類に迄及べり。

朝鮮に於て黨派の起れる眞因を案ずるに、宣祖朝に至り泰平長く續きて文運隆昌となり、人材輩出し社會組織完成して變則的進路漸く杜塞せられ、多數の人材の富貴を獲んとするや同一徑路に循りて競爭するの外なき事となれり。而して小半島國たる朝鮮の官界は規模極小にして一時に官吏たるべき人數幾許もあらず。柳磻溪は九百人と計算せり。加ふるに禪正臺たる司憲府、司諫院及三館は日夜彈劾文を草するを以て職となす是に於てか朝鮮官界に在りて永く樞要なる位地を保たん事は至極困難となれり。朝鮮の士類は全體として官場の弱者となれり。弱者が自ら强くせんには相聚まりて團體を組織し群聚の勢力に因りて强者たるの外なしされば此頃より誰彼を問はず皆心の奥には利害相通ずる者を得て黨派を作らんとする欲願あり。偶々金孝元沈義謙二人者の私爭に蕪して遂に東人西人の分立を致せるなり。されば今日の法治國に於て個人の利害保護の爲に會社の發生せると同じく、朝鮮の如き專制政體にして官吏の地位鞏固ならざる國に在りては上流階級の間に弱者の利益擁護の必要上黨派の生ぜるは當然なりと謂はざるべからず。既に兩班階級に黨派樹立の必要あれば、其の以下の中人階級吏胥階級に黨派心盛となり其々黨託して以て自階級の利益を擁護するに至れるは怪むに足らず。中人は鞏固なる團體を成して兩班とも通緣せず嚴重に職務上にも境域を劃守して以て共同の利益保障を謀れり。吏胥亦然り。地方郡邑の吏胥所謂衙前輩は到處の邑里中一の黨派にして祖先傳來の黨内規約ありて祕密の嚴守利益の共濟に任せり。卽中人及吏胥は兩班級に對しては社會上の弱者級なり、尋常一樣の個々活動に放任せば到底永久に身分職業の安全を保する能はじ、必ず衆力を合して打ちて一團とな

して始めて兩班に對して階級の利益を擁護すべし。

常民に至りても亦然り。官吏、兩班、儒生、吏胥四階級の下層に位して常住上級の抑壓を蒙むる所の弱き地位に在る彼等は其知識程度の低く生活の窘促する爲團結する事極めて難し。されば共一旦何か機會ありて團結を可能ならしめば相率ゐて來り投じて其團體力に依り弱者の利益を擁護せんと欲するなり。予は李朝末葉に於ける外來宗教の盛なる宣傳新宗教の猛烈なる弘通の第一原因を此に置かんと欲す。基督教の始めて此土に來るや其の教義の上よりは到底上流社會に布教せらるべきものに非ず。即其の唯一の神の外あらゆる鬼神を禮拜祭祀するを禁じ天堂地獄の說を以て信仰を勵ますは儒教の教義と枘鑿相容れざるなり。儒教は神を認めざるが故に禮拜祭祀は我が先祖及先聖に限れり。天堂地獄の說は佛者の說と同じくして儒者の尤も荒誕として排斥する所。されば基督教は儒教の教義の高尚なる爲未だ解する能はざる下等社會の外は先づ朝鮮社會には入るを得ざるべきものなり。東學黨の教義亦儒教を奉ずる者には容れられず。其の奉侍する天主は即耶蘇教の神の神格に合も其の三教合一を唱ふるは異端なり邪道なり。されば東學教の開祖崔濟愚の豫言に曰く、我教に來らざるもの三種あり曰く、今の所謂學問文章ある者、曰く身分の高き者、曰く財産富裕なる者是なりと。然り東學教亦基督教と均しく平民間にのみ流行すべき約束なり。而して基督教東學教共に一度朝鮮に說教せらるゝや倏忽にして多數の歸依者を得て直ちに朝廷の大問題となれり。是れ決して單に李朝の下民の宗教に渴したるの致す所なりとのみ速斷すべからず。由來朝鮮人は信仰に由りて動かさるゝよりも利益に由り

て動かさるゝもの衆し。

彼等が基督教徒たり東學教徒たるは卽平民の爲に團結作黨の好個の機會を與ふる者なるが故に其の團體的勢力に依りて自己の利益を擁護せん事を欲求して多數の常民が來投せるなり癸巳三月李太王の東學黨鎭壓の使命を帶べる全羅道監司金文鉉、慶尙道監司李容植に下せる敎中にも官吏兩班吏胥等の下民を逆遇する事頻年愈々加はれるもの卽東學の信徒をして益々多からしめし眞因なりと云へるに徵すべし。然らずんば夷狄視せる紅毛碧眼種の宣敎師にして而して四百年祖先崇拜の古俗を無視する基督敎をばしかく容易に信奉する事萬々なかるべき理なり。基督敎に入敎するは個々利益擁護の爲なりとの見解の正しきは最近に至りて西洋人の力を借りて官吏の誅求に抗し得べしと信じて以て敎徒たる者の多かりしに徵しても明かなり。雲養集卷八、十六私議の第十二議講約中に基督敎宣敎の害毒を論じ法國と敎約を締結して以て其の害を防ぐべしと述べ、其敎約をば米國人墨賢理の言を借りて說き出して

法國敎主在二朝鮮地方一傳敎。朝鮮官員視レ之如二各國商民一一體善遇。朝鮮人民在二法國敎堂一爲二敎徒一朝鮮官員視レ之與二他民一同遇。有二訟及犯罪一者朝鮮官員拘到查問從レ公辨レ法。法國敎主不レ得二袒護一如レ此立約。則庶レ無二護黨之患一矣。余深然二其言一。

と云ひ善く基督敎徒たる朝鮮人の眞意を抉剔し終に於て庶レ無二護黨之患一矣と言つて黨字を拈出せり。其の所見正に我見と契合す。朝鮮の基督敎徒は利益を欲求するを主眼とする者なり。然らば則溯りて其の宣敎當初の敎徒も同じく其の入敎の動機が信仰に在らず團體的勢力を利用せんとの欲求に在るを推論するを得べし一進會の一時非常に勢力を得其の團體より大臣次官局長を出すに至れる亦畢竟平民間の黨派心を利用して以

て百萬と稱する會員を集め得て團體的大勢力を有するに至りし爲なり。統監府設立せられ次で日韓併合せられて再度政治的手段によりては朝鮮復活日本排斥の成功を期する能はざるに至り、俄かに種々の新宗教の唱へ出されしを見る。曰く天道教、曰く侍天教、曰く檀君教、曰く大宗教、曰く太極教、曰く孔子教と何れも深遠なる教義なく人格高き教主あるに非らず畢竟政界の失脚者自稱愛國者が宗教を利用して以て朝鮮人の團結を致して以て何等か爲にする所あらんとせるものなり。今尚天道教の無識なる信徒中には再度天道教徒の時節到來せん事を夢みつゝある者あり。

5、文弱

日本が建國以來尚武の國たりしに對して朝鮮は尚文の國なり。武の弊や暴、文の弊や弱、朝鮮人の特性に文弱を加ふる所以なり。

尚文賤武は儒教の一大缺點にして支那既に其の弊に罹れり。支那は開闢以來他民族と戰ひて勝てる歴史を有せざる國なり。兵爭に於ては常に他民族に破られて而して社會的に他民族を同化する力を有せり。朝鮮も他民族に勝たざる歴史を有するに於て同樣なり。高麗の尹瓘、李朝世宗朝の金宗瑞の女眞を征して稍や功を見しありと雖畢竟一時人物の個人的才能に基ける變態に過ぎず。其の歴史を通じて外國に侵入せられし事屢次なるも自身外國を侵せる事を見ず。偃武不用が朝鮮政治家の理想にして兵を以て凶器となす。千餘年前新羅統三の功臣金庾信が武將を以て宰相の印綬を帶べるあり。高麗朝の中世文臣權を專にせるの餘武臣之に堪

へずして鄭仲夫を擁して亂を起し文臣を塵殺し次で崔忠獻一家武門執權の世を現し、李朝の太祖李成桂が武臣出身を以て倭寇を拒げるの功により文臣を壓して終に王となれるの事實ありと雖、大體に於て文臣政治なり。文臣に非れば政治の樞要に參與する能はざるを例とす。李朝に至りて高麗の制に倣ひ、兩班と稱して文班武班を以て士の階級となせりと雖、武班の家門は文班の家門に比して一階級下れるものなり。勿論中には武班の出身にして大臣宰相の文職に到れる者もなきに非れ共是れ異數なり。反りて文班にして入相出將の自在を得たる例極めて多し。されば李朝中世以後政治糜爛するや益々文貴武賤となり文武兩科擧あれ共、數回乃至數十回文科に應じて落第し到底及第の希望なき者の轉じて武科に應ずる者衆し。合格するも文科に比して榮譽同日の論に非ず。兵士の社會的位地は殆ど賤類卽奴僕と相似て官吏は之に接するに最下等の語法を以てす。されば兵士たる者も浮浪者に非れば職業なき窮民の一時身を倚するに過ぎず。

兩班の家庭に於ける兒童教育法を觀るに一切玩具を與くず小兒らしき遊戲をなさしめず。漫に早熟を强請して終日机案に對して讀書習字する兒童を以て良兒となす。朝鮮兩班の兒童は一生中兒期を有せざるなり。學校の教育も偏文主義にして武藤運動を課せず。白面瘦身を以て才人秀才の典型となす。されば文弱の特性は既に家庭及學校に於て顯著に養成せらるゝなり。

世界各國の歷史を觀るに必ず統一せる一國家を成す前に多く封建制度の創建せられしあり。獨り朝鮮は古來封建の起れるを見ず。高麗の中世以後より李朝太祖迄の間兩班の柴田頒興卽私領制ありて封建の萠芽を見

しが亦終に實現するに至らず。世界歴史上の一異數となすべし。其原因果して何くに在るか。是れ朝鮮研究上重大にして困難なる問難にして諸種の方面より研究して而して後解決すべき者なるに相違なく其の屬國を以て始終し國王自身一諸侯を以て處れるも一大原因なりと雖、姑く文弱なる特性に基きて之を攷究すれば確に其の一因を此に置くと謂ふを得べし。大凡封建制度の創るには中央集權の弛緩と兵權の分割とを二大要件となす。而して中央集權の弛緩も兵權分割に因りて起る者最强力なりとす。即兵馬統帥の專權を委せられたる大官が地方に於て權力の根蔕を据ゑたる時は中央政府の制令も此に及ぶこと能はざるなり。日本の武家漢の封王唐の藩鎮獨逸の諸侯即是なり。功臣を賞するに土地人民を以てするは封建已成後の慣習に依る。然るに朝鮮の歴史を覽るに、新羅は姑く措いて論せず。高麗朝も尙文賤武の例に依り地方大官は何れも文官なるを法とす。成宗八年に眞かれたる東西北面兵馬使は親授斧鉞赴鎮專制閫外とありて即總督なり。而して三品の文官之に任ぜらる。其下に三品の知兵馬使一人四品の兵馬副使二人五六品の兵馬判官三人あり。毅宗の朝武臣權を用ふるに至りて始めて西北界防戍將軍兵馬判官を兼ね、神宗朝又陞せて兵馬副使となせり。斯くの如く高麗朝の職官の組織も地方大官は文官を以て之に任じ武職は其の制を受けしが故に、如何に一時權勢赫々たる名門の重臣之に膺るも敢て中央政府に對して一敵國を形作くるの實力を得る能はず。又彼等は軍事には門外漢なるが故に武人の死力を得る能はず。毅宗以後一時武臣專權の世を現しゝも武臣等は文臣の位地に代りて中央の樞機を握るに急にして終に勢力を地方に扶植して藩鎮の制を建て中外相應じて勢力を永く維持

するの策に出づるを知らず。中央の權力倒るゝや乃ち全勢力同時に顚覆せり。故に曰く朝鮮史に於て終に封建制の起るを見ざりしは其の職制尙文賤武にして武臣に地方割據の機會を與へざりしを大なる原因の一となすと。されば朝鮮の官海には文武の兩班區劃せられて世襲すと雖、李朝の文臣等に暗に蜀漢の大宰相にして元帥たりし諸葛亮孔明を以て理想となし、入相出將を以て大臣の體を得たる者となせり。宣祖朝の名臣にして朝鮮第一の大學者たる李珥栗谷は實に野人北邊を襲ひ邊警日々急なるに當りて兵曹判書の重職に膺り日夜軍務に鞅掌し其の門人に語る所に據れば將帥の任も亦難しとなさゞりしが如し。李太王の晩年に至りては文臣の多くは軍職を兼帶し勢力ある大臣は大抵陸軍副將たりき。亦以て朝鮮人の武職に對する思想を見るべし。英宗朝の有名なる儒者韓南塘曰く

我國有三三大變一文官之蔑視二武辨一。士大夫之凌踏二庶一。俗人之賤待二僧徒一。實爲二禍根一。蓋文武之貴賤懸殊自レ古然矣。

と古來識見ある者予と歎を同じうするあり。

6、審美觀念の缺乏

審美觀念の缺乏も亦朝鮮人の特性の一に數ふべし。曩に朝鮮の皇土に加へらるゝや富人豪家官職に依りて生計せる者漸く家計困難を來し家寶の所有物件を賣却する者都鄙相次ぐ。予輩好事者は兎に角四百餘年の舊邦なれば古美術古器物の價値あるもの尠からざるべしと期待せり。然るに安ぞ知らん。其の量に於て質に於て共に觀るに足らず。全朝鮮を通算して我が大なる一縣の所藏にだも如かざらんとは。而かも其の中最珍物

最高價物は則支那物なり。予は朝鮮の如く美術保存の力貧しき國は未だ嘗て聞かざるなり。朝鮮人は往々にして辨じて曰く、宣祖壬辰の役所藏古珍物は大抵日本兵の爲に掠奪せられずば兵火に焚かれたりと。然れ共亂を歴る事屢々なるは支那にして官民の財産の蕩盡せるは支那を最となすべし。日本と雖外寇こそ殆無けれ、内亂に至りては朝鮮に幾百倍久しく又劇しかりき。然り而して支那の古美術なきが如くにして實は保存せられ、日本の最も古物保存に長ずるは朝鮮と雲泥の差も啻ならざるなり。是れ何の故ぞ。

昔者三國鼎立の時代及新羅朝降りて高麗朝迄は幾許か美術品の製作せられしが如し。三國時代の製作は日本奈良に保存せられて實に日本美術の淵源を留め、新羅朝の美術は金屬石屬佛像塔鐘として日本及朝鮮に殘り高麗朝の製作は佛像陶器として朝鮮に發見せられし物頗る多し。是外支那朝鮮の史乘に傳はりて其の美觀壯觀を想像すべきもの或は織物或は建築物或は像塔繪畫に歴々數ふべし是等古き三代の朝鮮人の審美觀念は李朝の其とは全然類を異にする者と謂ふべし。是れ何の故か。他なし、三國新羅高麗の朝鮮人は佛教を篤信して熱烈なる宗教的信念を有したりき。而して李朝の朝鮮人は佛教を奪はれて代るものを與へられざりしが故なり。上代の朝鮮人の美術は佛教美術にして或は直接に佛教の信仰の發露して莊嚴微妙圓滿なる繪畫彫刻像となれるものあり。或は佛教隆盛となれる結果其の寺刹を莊嚴にせんが爲めに種々の建築彫刻繪畫土木の技術を需要して間接に美術の興隆を助けしもあり。由りて以て慶州開城は一時絢爛たる美術を備へしなり。李朝に至りては一朝にして是の美術奬勵の核子を取去られたり。美術の萎微不振に至れるも宜なり。

第二の原因としては儒教の幣を擧ぐべし、孔子は文學をさへ閒餘の業となし專一に政治を包含せる道德を學修するを以て士大夫學問の眞義となせり。況んや世閒の實用と殆ど沒交渉とも謂ふべき美術に遊ぶをや。儒教は利用厚生の實學にして其の花觀るに足らざる果樹にも譬ふべし。されば繪畫の如きは棄世の閑人の獨り樂む所、建築彫刻の美は往々奢侈を伴隨するが故に寧ろ之を排す。儉素は儒教の理想的生活なり。然れ共支那は流石に四百餘州に亘れる大國なれば生民の種類も千差萬別にして各種の天才を產出す。孔子の教は道德政治律として之を奉ずるも實際は大に土木を興す帝王あり佛教道教に耽溺する王者あり。美術家を優遇する貴人あり。支那の美術は六朝以來駸々として發達せり。宋儒に至りては所謂道學先生にして思想枯淡浮華を忌み美術的觀念の養成とは主義に於て相容れざるなり。李朝に至りて佛教を排して代ふるに宋の道學を以てす思想界に革命を來さゞるを得ず。其の結果高麗迄傳へ來りし佛教に根する審美觀念は消失して而して宋學の養成する枯淡にして實利を主とする思想益々勢を得、上中流社會を通じて美術を以て人類生活上無價値の物と視做するに至れり。

第三の原因は官府の饜くなき貪求なり。李朝の官吏は所轄區域內の常民を視る事領主の領內百姓を視るが如くなれば、其の生產する所の天然物人工物に於て意に協へる者あれば輙ち上納を命じ往々之を京師の權官に贈りて以て人情品となす。其上納や多くの場合に於て献進なり。若し不幸其の物品の京洛大官の意に協ふ事あれば誅求に誅求を重ねられ財を竭さずんば已まず。されば有名なる特產物ある地方優秀なる技術を有する

工匠は偶々以て其の地方を疲弊せしめ其の産を破るの張本たるものなり。斯くて李朝初年には幾分觀るに足る製作品を出せるも中世以後には全く凋落して國を擧げて滔々俗惡使用に堪へざる日用品以外に産する物なきに至れり。今其の著明にして悲慘なる一例を擧ぐるに、慶尙北道淸道に刀工坦才なる者あり。口は啞すれ共神技あり。鐵質を識別する事神の如し。文祿の役日本軍士卒其の製作を見て頗る稱讃せりと云ふ。其の兄斗里亦名工なり。坦才沒して其の子業を繼ぐ。然れ共官家の作品上納を督促するの過虐なるに堪へず。遂に自ら其の右手を斷ちて因りて以て纔に破産を免れたり。美術は國家及縉紳富豪の庇護に須ちて始めて大に發達するを通則とす。斯かる作家を侵虐する國に於て美術の全く衰滅せるは洵に當然なり。

第四は大多數の人民の赤貧なりとす。前述の如く王家及上流社會は儒敎の實利主義に囚りて審美術觀念を賊はむ、官府は徒に美術家を虐するを以て法となしたり。之に加ふるに大多數を占むる常民は生れてより死ぬる迄生活に逐はれ一刻の餘裕もなし。美術の如きは直接生活の實用を主とするものに非れば貧者には之に心を配るの必要なく又機會もなし。縱ひ王家兩班美術を尙ばす官吏も美術家を虐すとも國に多數の富有なる平民共あらば又自ら保護者を獲て以て諸種の美術の製作も起り得べけん。如何せん李朝中世以後地方行政全く廢頽し、國初及盛代に規定せる正稅卽結稅大同稅の外數限もなき稅目出づるに及びては百姓は汗に次ぐに血を以てし而かも年中營々として肚裏枵然たり。而して官府の誅求剝奪の度は財産の程度と正比例す。唯だ之を免れて能く晏如たるを得る者は門閥卑からぬ舊家の大富豪にして、彼等は巧に京城の勢家に連絡怙恃し

て以て地方官吏の侵漁を制す、例へば慶州の崔氏の如し。されは共之が爲に居常勢家に進輸すべき財貨は甚夥しとなす。金允植子の雲養集卷八、十六私議の第九護富に朝鮮に富民生ずる理なきを述べて曰く

余觀二鄉曲物情一。貧者固難二自保一。富者尤不レ可レ堪。其大富者操二其奇贏一游二於貴近公門一附レ勢自固尙能衛レ身。小富力不レ足惴々栗々欲レ啄而四顧終不レ免。最可レ畏者官長也。其次大豪也。其次剽掠之賊也。

民手足胼胝僅收二數十石之穀一輒得富名疵瘕浸漁之患已四起矣。或被以二匡章之名一或誣以二中毒之私一。或徵二非族之逋一或索不用之債。或以二好言一貸取或以二虐刑一劫奪。要レ之盡蕩二其產一而後已。……是以村民得二錢一一貫以上不三敢明貲貨二家中一。惟畏二人知一勤一於生理一者不二敢恣意營業一見レ利而不レ能二趨赴一。顧望兢々然若二負レ罪之人一。如此而民財安得レ阜乎。民生安得レ樂乎。

と赤裸々に李朝晩年人民生活を描寫せり。實に李朝に在りては平民なる者は富む能はざるは勿論一年後の計を立つるを許されざりしなり。唯だ一家數口粥を啜り味噌を嘗めて纔に飢凍せざる程度の生活を營むを許されしものなり。雲養の此議は朝鮮人に審美觀念の發生を望むべからざるを說明すると同時に勤儉貯蓄の精神の起ることあるべからざるをも併せ論述するものなり。數日絕粒せる人は粥の外口にすること能はざるものなり。往時の弊政に呻吟せる朝鮮人は年中粥を啜らざるべからざる人民なりしなり。粥を食ふには勤儉貯蓄は無用の業なり。實に朝鮮の田舍の光景は之を日本の村落に比して索寞荒寥として非美的を極む。而して其は恰も日本の村落の富の程度と朝鮮の鄉曲の富の程度との差違を表すものなり。

朝鮮の林政荒廢して山野樹木芟伐せられ一草一木の根迄掘り盡さるゝは、一には勿論寒を防ぐの急須なる爲なれ共、他には又彼等の審美的觀念絕無なるに歸せざるべからず。朝鮮の平民の生活に餘裕なきは終に山

木蒼々溪流潺湲として流れ紅花紫花點綴する山林の美觀を賞玩する幼稚なる審美觀念さへ發生するを許されず。一木一草を見れば先づ斫り歸り芟り歸りて、今夜の燃料となさんと思ふに至らしめられしなり。憐むべし。

7、公私混淆

審に李朝施設の迹を考ふるに凡百の制度法令も其の當初に在りては何れも相應の趣旨と必要とを有せるものなり。或は新に民利を起し、或は從來の弊を矯正して以て國政に利するの意義を有せるなり。然るに如何なる施設制度も之を行ふ事未だ久しからざるに弊害忽ち伴生して早く當初の趣旨を沒却し、偶々以て新に民瘼を添加するの結果となり、斯くて前政既に廢頽して廢瘼獨り殘り、更に新政亦敗頽して民弊を生じ、屋上屋を架して以て李朝晩年の慘狀を呈するに至れり。されば朝鮮政治家及民衆の慕ふ所は其の國初の施設約にして制度簡未だ其の敗頽を見ざる當時に在りとなす。然り而して固著性顯著なる特性として、斯く敗頽して民瘼を招ける制度施設をば斷然罷革するを難んじ、萬民の疾苦彼が如くにして而して終に改まらず。蠢々たる黔首は昔も今も暴君に等しき郡守觀察使の爲に淸德不忘之碑を立つるを慣例となせり。

斯の如く凡百の制度施設が久しからずして敗頽し、當初の趣旨蕩失して徒に弊害を殘すは何に原因するか。之を政治學上より考察すれば政體の宜しからざる政務組織の不完全なる等種々の說明あるべしと雖、予は主として從來朝鮮人の公私混淆する特性に歸せんと欲す。李朝の政治の腐敗は其の核心には必ず私利を營む

の要素を含有せり。一切の施設は國利民福の爲に立案せるにのなれば私利を思はざる官吏局に當れば少くとも其の關係する範圍内に在りては公益を産出すべきなり。但だ有司公心なく專ら此を機會として一身一家の私利を攫取せんとす。故に國家は幾許か國庫の收入を增加するありとも、大部分は中間有司の私腹を肥やし人民獨り新に誅求項目を加へらる。今李朝國初以來の實例を一々列擧するは煩に堪へざるが故に僅に其の二三を擧げて一般を想像するに資せんとす。其の一を大同法となす。國初朝鮮の稅法は極めて輕くして旱田一結六斗を標準とし古制什一の率より少し。されば王家に貢進する所の土地の産物あり。年々定額を貢せしむ。世漸く降るに從ひ誅求漸く作りて國初所定の土宜を貢すること甚だ難し。他方に依りては他方に買ひて以て僅に額數を滿たすに至り民瘼莫大なり。明宗宣祖の頃に至りて愈々甚し。柴谷李珥黄海道に監司たる時試に土宜貢進の代りに大同法を設けたり。大同法とは一區域内一律に田結よゝ幾許かの米を出して京師に輸して以て土宜に代ふる法なり。後孝宗の朝潛谷金堉柴谷の試に遵ひて更に法規を整備して終に三南に行ひ以て漸く全國に及べり。是に至りて水田一結十二斗を增徵するに至れり。京師には宮内府に宣惠廳なる者を置き大同米の出納を掌る京城に貢物廛を設けて富民を主人となし王家は之に貢物供上を命ず。貢物廛は命に依りて物品を整ひて上納し、其の價額の米を宣惠廳より受取るなり。されば貢物廛は一般の商業をも副業となし最利潤多き商賈たり。然るに大同法の行はるゝ事久しきに及び種々の弊生ず。第一は收稅吏の誅求の項目を一箇添加せるなり。米を京師に運上する際の船舶の水災なり。仲繼業者の不當利益なり。第二は宣惠廳有司

の營利にして王家は頓着なく貢物廛に供上を命じ、宣惠廳は貢物廛より賄賂を贈來るに非ずば容易に貢價を支拂はず。貢物廛は漸く貸越となり李太王朝に至りては各貢物廛多きは四五萬貫少きも七八千貫の貢物價を滯給せらる。甚しきは貢物廛の主人戸曹の大廳前に齒を敷きて三十人四十人竝び坐して判書に直訴せるの事屢々なり。斯くて終に大同法も民瘼となれり。

朝鮮鎭營の設置は宣祖の壬辰役大亂に備なきに強寇に攻入せられし苦き經驗を嘗めて相臣柳成龍が上書して各道に五營を置くに始まる。初は文官の守令を以て營將を兼務せしめしが、顯宗朝相臣洪命夏の議に依りて武臣を以て營將となし兼ねて管内の盜賊を捕へしむ。李太王朝に至りては京畿道營將六員忠淸道營將五員、慶尙道營將六員、咸鏡道營將六員、平安道營將九員、江華府鎭撫營將五員を置きたり。然るに仁祖の丙子亂以後二百餘年八道復た兵亂を見ず。彼等鎭將は其の本事を用ふるに所なく唯だ捕盜の一目ありて聊か供聯の具とするのみ。營將は武職なれば俸給甚た薄く殆ど體面を維持する能はず。之に加ふるに任期僅に一年にして交遞せしめらるゝを法とす。是に於てか鎭亂捕盜の營將は變じて良民を殘虐する大將となり、捕盜刑縛の權を惡用して所在富裕なる良民を捕縛して其の家財を沒收す。在任一年力を盡して私腹を肥やして去る。朝鮮の俚諺に欲ニ問營將治聲一。須ヒ看ニ門外草靑一と云ふあり。蓋し營將の治績の擧るは門を閉ぢて屋内に閑坐するものにして始めて望むべしと云ふなり。

鄕校の財產の如きも亦是類に洩れず。國初學田を置ける趣旨は以て居齋の靑衿を養ひ文廟の祭祀に供せん

とするなり。世級漸く降るや。鄕校の名存して學校の實滅び、學田の收入は年々春秋釋奠の際郡內儒生の牛飲馬食の費に充てらるゝのみなり。學田の廣さものは平常時にも儒生の衣食の資に供せらる。

量田亦然り。李朝太宗元年に量田を始め李太王の光武二年量田地衙門を革して地契衙門を設けて其の事務を繼承し八年に之を卒る迄歷代二十年毎に之を行ふべく定めらる。然るに此に寄異なるは太宗五年第一回量田終れる時には全國の結數百七萬九千八百四十五結なり。後國運益々盛にして宣祖朝壬にには百五十一萬五千五百結となれり。然るに李太王光武八年に至りては九十九萬二千四百四十四結に減せり則ち四百五十年前より約十萬結減じ三百五十年前より約六十萬結減せる事となる。斯かる事は實際あり得べきに非ず。畢竟官吏大姓土豪の隱結非常に多きに量田吏員が彼等の請託を容れて其の土田の結數を少くし以て互に私利を謀れるなり。

上來列擧せる數例は實に李朝制度敗頽の一微例に過ぎずと雖其の根本の何くに在るかを探れば何れも公私混淆して公物を私物に曲げ用ふるに外ならざるなり。然らば則是の特性の由りて生ずる因地如何。公私混淆は之を消極的積極的の二類に分つべし。消極的とは汚官貪吏の如く公物を私物に奪ふに至らざるも私事に由りて公事を廢して怪まざるを謂ふなり。例へば我が輕き病に由りて公務を怠り、さ程にも非る親患妻患兒患を言ひ立てゝ缺勤し老親を養ふを口實として遠地に赴任するを拒み、多數家族を養はんが爲に中央の官職よりして收入多き地方官に轉任を請ふ等の如き是なり。是は朝鮮人に在りては殆ど常行道にして聊も彼等の職

務上の良心を刺戟するてとなし。積極的とは前に述べたる諸類の官職に在る者の職權を利用して私利を營むものなり。

消極的公私混淆積極的公私混淆兩者を通ずる原因としては先づ東洋一流の公私の差別觀念の低度なる發達を數へざるべからす。眼を轉じて支那及日本を觀るに亦同じく公私混淆の迹顯著なるものあり。近く例を日本の自治制に取るに到處の市町村に是弊の見えざる者たえてなくして纔にあるに非ずや。官公吏の瀆職の常に新聞紙上に絶ゆるなきは何を證するか。更に德川幕府晩年に遡れば殆ど言ふに忍びず。四十七士の元祿の快擧も吉良氏の積極的公私混淆より起れる者なり。遠く上代を觀れば官職は家の世襲にして子孫たる者は賢不肖を問はず家業を繼ぐを得たり。甚しきに至りて左衞門、權兵衞等の如く官職名を其の儘名となし之を子孫代々承け繼ぐあり。公私混淆の消極なる實例を表せり。支那に至りては論なし。實に公私の差別觀念の發達低度なるは吾人東洋人の通幣と謂ふべし。是れ實に綜合せる意味に於ける國家及社會の發達の程度の低きに職由す。日本の識者の之を慨する者頗る多しと雖も其の實是觀念の稍や發達を見しは極めて最近に屬す。須らく人民の政治的智識社會意議の向上訓練を俟ちて然る後始めて是の東洋流の氣習を脱するを得べし。

二には朝鮮の社會組織の家族主義なるに因る。朝鮮の政體は君主專制なりと雖、主權者は姓を更ふる事を許容せらるゝが故に、朝鮮社會の單位として純一不變なる者は宗家末家統合せる家族なり。是に於てか君國に對する道德たる忠と父祖に對する道德たる孝とは個々分立する事となり、社會組織上の價値より觀れば孝

を以て忠の上に置かざるを得ざるに至る。されば歴代の人君も臣民の忠君愛國を勸奬せりと雖殊に力を籠めて孝悌を奬勵せり。不忠と不孝とは對等なる朝鮮人民の最惡德なり。忠を孝悌の上に置くことは朝鮮社會組織上許容すること能はざるなり。忠は出でゝ仕ふる官吏を律すれ共下民は之を要求せらるゝ事なし。孔子の所謂忠臣出於孝子之門なる金言は即朝鮮歴代人君の纔に倚りて以て心を安ずる所なり。是に於てか孝道の爲には不忠に至らざる範圍まで公務を制限すとも社會之を公許するの慣例を生ず。何となれば斯くする方最も社會一般に都合喜ければなり。前に述し消極的公私混淆は大抵是の慣例より起る者にして現今尚朝鮮人官公吏公人の意外なる口實の下に缺勤し辭職し乃至轉任を公請するある所以なり。更に大家族制に因りて積極的公私混淆を促すに至るは是等の數十乃至數百に近き家族員は其中の成功せる一人乃至數人が扶養の義務を負擔する事となるが故に益々生活費膨脹し勢官職を利用して私利を營まざるを得ざらしむるなり。是は獨身の境遇には貧乏に堪へ得れども共妻孥の繫累生じては耐へ能はざると同一理なり。大家族の中一人成功すれば極力家族の者を推挽して以て官職を與へんとするも亦同一動機より出づ。朝鮮に於て古來殊に輓近に至り兄弟相提挈して官場に翺翔し一門の權勢を張れる者其の例頗る多し。是點に於ては我國王朝時代の大家族制度の生せる結果と全く相同じ。

第三には支那制度の缺陷を其儘踏襲せるなり。支那も古來朝鮮と同じく官吏の公俸は極めて少額にし實收入は人々の手腕の之を徴達するに一任し一種の請負業の如し。地方官は我が住宅を以て衙門となし私役の走

隷卽官衙の使丁なり。恐らく私經濟と官經濟との區別を立てざるものならん。朝鮮は制度を支那に倣ひたれば法令上地方官の俸錢は甚低く守令に使役せらるゝ胥吏走卒輩に至りては表面上無月給なり。守令は吏輩と協力して一定額の稅金を國庫及宮內府に上納すれば其以上巧方便を以て民に取るは國法禁ずる所なく、又然らざれば到底自身の體面を保ち吏輩使丁走卒等の扶養をなす事能はず。公納額を除ける郡內の財力は卽全部守令の爲に俎上の肴核にして言はゞ一家の臺所に恰似せり。されば郡衙の構造も支那に酷似して郡廳は別に設けたりと雖郡守の住宅も同構內に在りて其の實一構域全部守令の住居と視るべし。種々の亭子樓臺は官設なれ共守令の私臙に用ひらるゝが爲に造られ、公妓は官物なれ共守令の占有に一任し、甚しきは守令の賓客郡衙の秘書役を兼ねて威福の權を弄するあるも人以て怪まず。斯の如く制度既に公私混淆の見地上に制定せらる。實際に於て其の極端に害用せらるる事理の當然なりと謂ふべし。

第四に官吏の短任なり。世に朝鮮の官吏程位地の不安定なるものはあらざりき。官場の變遷は宛ら走馬燈の如し。大官顯職と雖畢竟槿花一朝の榮に外ならず。古寓意譚に螳螂蟬子を狙ひ黃雀螳螂を狙ひ兒童丸を持して黃雀を狙ふとあり。朝鮮の官場は正に之と相似たり。互に蟬子となり螳螂となり黃雀となり兒童となりて旋轉す。されば何人も安固なる位地を占むる事なく一切の政治的施設は一時の對症的にして曾て自主的に永遠の計策を立つるなし。譬へば夜市商人の如し。今夜此處に店舗を開くも明夜果して何方に移るべきか測られざれば其の商品に信用を重ずるの事あるべからざるなり。殊に地方官に於て然りとす。牧民の職たる樹

を植うるが如し。少くとも一施設が結果を生ずる迄は五年以上の歳月を要す。朝鮮の郡守は古來速遞を原則とす。一年動かざる郡守は寧ろ久任なり。されば官吏久任の議は早の宣祖朝諸名士の奏議に見ゆ。官吏短任の結果は第一に治績の擧らざるは勿論尤も官吏の積極的公私混淆を促進す。如何なる顯官にても一年以上の任期を豫想することを能はず一度廢官となれば何時か再度の起用を必とせられずとすれば先づ其の短期間に於て極力辣腕を奮て以て所得を多くせん事を圖るは人情の自然なり。富源の培養の觀念なくして剝奪をのみ考察す。されば官吏の短任は公私混淆の發生的原因とは視るべからざるも助成的原因と視ざるべからず。

8、寛雍、鷹揚

朝鮮人の容貌態度に於て日本人と比較して寛雍鷹揚なるは其の稱讃すべき一特性なりと謂はざるべからず。或は之を暢氣と謂ひ無神經と謂ひて輕蔑する者なきに非れ共、予は之を短所の意味に解釋せずして長所と視做すを公平と信ずる者なり。寛雍鷹揚とは頭腦の使用叢脞ならず大局に渉りて考量する所なくとも少くとも瑣細なる點は他の爲さんと欲する所に一任し、感情の發表勁烈ならず。凄味殺味なく、喜怒哀樂倶に餘裕を存し、温乎として春風の如き氣象あり。擧動悠揚迫らず歩行安詳威儀懷くべく敬すべきあるなり。されば神經質、辛辣、奮鬪的、局促等の氣象と相反するものなり。勿論此の美質は京鄙の兩班士豪世家等世間の生活難を知らざるを得る階級に最も顯著に認むる所なりと雖、朝鮮人全部を通じて日本人と對照するも尙優に此の特性を認むるを得べし。今日京城に在住して從來官職に依りて生活せる者にして恒産あり定收入ありて將來

の生理の計立つは極めて少數なり。多くは駸々として中産より貧に貧より一層貧に赴きつゝあり。然るに斯かる心細き境遇に處して彼等の衣服輿車の外觀は衰へしと雖其の態度容貌に於て日本人の斯境遇に在る者に比して慌恐的神經質的氣象極めて稀微なり。寧ろ絶無と謂ふを得べし。又田舍の農民の如きも前朝數百年官府の誅求と地主と小作人との間の慣習律が到底餘裕を與へざるが爲一家恒に枵然として空しきに拘らず能く我が國の農民同樣若くは其の以上の樂天性と鷹揚なる氣象とを有せり。更に之を兩班勢家の老人等に觀るに彼等は何れも前朝の末年迄は老、少、南、北の四色に籍を列ねて日夜政權の爭奪反對黨陷擠に腐心焦慮し往々生死の巷に出入せる者なり。然るに親しく彼等に接するに亦是れ鷹揚悠雍步行安詳なる好紳士なり。余は朝鮮人一般が寬雍鷹揚少くともしかあるべく見ゆる態度容貌を具ふるを以て其の美質と禍倣さんと欲す。

朝鮮人が此の美質を具ふるに至りし所因何くに在るか。第一には朝鮮人固有性質の氣分悠長にして感情の激昂に富まざるに歸せざるべからず。俚語に朝鮮人の顏の長さと煙管の長さと氣の長さとは三長たりと云ふあり。悠長は寬雍と隣接し、感情の平靜なるは即和平泰然なり。日本人は終日事なきに堪へ得ざる人間なり。朝鮮人は恒に無事なる所に享樂を感ずる人間なり。彼の市井の賈夫が春の日永に半は火の消えたる長煙管を啣みて長顏の口を半開き半睡半醒に店頭に宴坐し時々思ひ出したるが如く二三度吸ひて太き雁首より縷々として紫烟を騰らしむるを見れば疑もなく悠長の人格化たるを認むるなり。

第二には朝鮮の國柄極端に禮儀を重せるを擧げざるべからず。朝鮮が古來禮儀之邦たるは朝鮮人の大なる

誇なり。朝鮮人の有する箕子傳說には平壤に來りて朝鮮人に禮儀作法を敎へて東夷中に在りて早く蠻夷の境より脫せしめたるの事あり。是時既に東海禮儀國小中華の資質成れりと信せり。朝鮮の學者は往々論語に孔子の道不レ行。乘レ桴浮二于海一。從レ我者其由歟。と曰はれしは今や道中國に行はれず反りて海東朝鮮國古禮を守りて道行はる。寧ろ東海を渡りて朝鮮に入らんと云ふなりと釋せり。又韓致奫の海東繹史は同じく論語に孔子欲レ居二九夷一。或曰陋如レ之何。子曰君子居レ之。何陋之有。の九夷を以て主として東夷朝鮮を指し、君子と云ふは孔子自ら言ふに非ず君子既に此に居れりと釋せり。唐玄宗が新羅の使者を見て其の進退坐作法度あり禮儀燦然たるを歎稱せるの史實あり。何れも朝鮮人をして禮儀國たるの自負心を起さしむるに足る。されば何れの代を問はず其の衣冠は嚴然として禮儀正しく、其の子弟を敎育するに足容重、手容恭、目容端、口容止、聲容靜、頭容直、氣容肅、立容德、色容莊、の九容を以てし、坐作進退必ず禮儀を失はざらしむ。禮儀の要は和に在り。旋々穆々に在り。能く禮儀に嫺熟する者は當然態度鷹揚氣象寬悠たるべく、貌は終に心を移すを以て自ら性情迄も化して此の傾向を有するに至る。

第三には李朝に現れたる大人物の何れも斯種の典型たりしに因る。李朝起りてより眞宰相名宰相として古今異議なき者は其數甚だ多からず。殊に中葉以降黨論盛となりては如何なる人も心の奧には黨派的根性を有せざるはなく、如何なる人物評も絕對的に公平を信ずる能はず。必ず理想的人物は之を宣祖以上少くとも老少、南、北、黨論以前に於て求めざるべからず。朝鮮有識者の比較的公論名相と認むる者を列擧すれば黃喜

許稠、孟思誠、鄭光弼、尙震、沈守慶、柳灌、李浚慶、李元翼、尹斗壽、申用漑、鄭太和等なり。而して彼の一代の才人にして能く艱難なる時局に處して事功を立てし柳成龍、崔鳴吉の如き往々此中に數へざる人あり。是等所謂名相の性格を案するに共通なる型を有せり。卽瑣々たる事功に屑々たらず、大局を達觀して身を以て國論を鎭め、不知不識の間に君を弼け民を濟ふの政道を遂行するを待るなり。されば赫々の功なく察々の明なく庵として民自ら永く忘れず。名相の中殊に此典型を善表せるは黃喜、許稠、鄭光弼、李元翼等にして就中黃喜を以て空前絕後朝鮮理想の名宰相となす。黃喜は世宗朝に相となること二十年。庵を以て一貫し朝廷事なくして治まる。筆苑雜記の人物評に曰く

公度量寬洪有二大身之體一。論二決國事一務從二寬大一。平居淡如雖二兒孫童僕羅列啼呼戲噱一略不二呵禁一。或有二挽レ鬚批レ頰者一。亦從二其所一爲。嘗引二僚佐一議レ事方濡レ筆書レ牘。有二童奴一溺二其上一。公無二怒色一。但手拭レ之而已。

慵齋叢話も佳話を傳へ併せて人物を評論して曰く、

公年高位重愈自謙抑。年九十餘。嘗坐二一室一終日無言但開二兩眼一看レ書而已。室外霜桃爛熟。隣兒盡摘レ之。公緩聲而呼レ之曰。勿二盡摘一吾亦欲レ嘗レ之。少爲出視レ之一樹之實盡矣。每晨夕喰レ飯。群兒來集。公除レ飯與レ之。叫噪爭食公但笑而已。爲レ相二十年朝廷倚以爲レ重。論二開國以後相業一者以レ公爲レ首。

と如何にも庵たる內に要領を得身を以て國家の柱石に任じ、寬雍鷹揚迫らざる人品を見る。鄭光弼、李元翼の傳を見るに亦略ぼ同樣の趣あり。陰厓日記に鄭光弼を評して曰く

公有二器局一。應接言貌休休而畦畛甚嚴。成希顏常服二其度量一。謂如二光弼一可レ謂三聽二於無聲一視二於無形一。敬レ之如二神明一。

と李蒼石李元翼を評する言に曰く

公襟度清明表裏純一。平居辭氣温々包レ笑。臨レ事屹然如二山岳之不動一。若夫居官處事純用二詩書一參考二古事一自合二於理一。

と以て朝鮮名宰相の性格を察すべし。されば朝鮮の大臣たる者は少くとも寛洪鷹揚の容貌風采を有し又居常努めてかくあるべく修養せざるべからず。器局狹隘にして好みで自ら屑々として瑣務に拘泥する者は擧世視て以て小人物となし敢て大臣の器を以て許さゞるなり。是れ一には朝鮮の政治が儒教主義なるの結果務めて法令を簡にして當局者の自由手腕を奮ふべき餘地を多く存し、簿書の事務は之を刀筆の吏に委し、所謂論語一卷を以て政務を行ひ得て餘ある組織を取りたるに由るものなりと雖、兎に角朝鮮人が一般に是の氣象に富むは一には確に理想的人物の與へし感化なり。

9、從　順

朝鮮人程萬事に從順なる民族は少かるべし。國家は能く從順に支那の制に服し、上流の士族は國王の權力に服從し、中人及常民は能く階級制度に從順にして士族の壓制に服し、人民は官府の命令に服從して餓凍死せざる限は稅金を輸せざる者なく、乃至幼者の長者に對して從順に弟子の先生に對して從順に、妻の夫に對して從順に、庶孽の嫡子に對して賤遇に甘むじ、未婚者が既婚者に向ひて從順に、奴婢の主人に對して從順に、賤類の常人に對して從順に、牛馬の末に至る迄使役に從順なる到底日本に在りては見るを得ざる現象なり。從順を以て特性の第九に寘かざるべからざる所以。

朝鮮人が斯く從順の美德に富むに至れるは種々の原因あり。一には此の民族の原性質なるが如し。前に引用せる山海經の文にも好讓不爭と評せり。恐らくは此の半島の地質的氣象的特質が自ら住民をして從順ならしむるものならん。二には始終政治的に屬國保護の地位に在りたれば國民にも自ら自主自立の精神乏しく人に倚り人に從ふを當然と考ふるに至りしなり。之を歷史の感化とも見るを得べきか。三には專制政治の鑄冶し成せる性質なり。法令の威力は專制政治に於て最大なれば其治下の人民は自ら從順なる性情を養ひ作さるゝなり。然れ共最重要なる原因は儒敎の敎義に基因して社會の秩序を重ずる思想の上下全般に强く深く瀰淪するに在りとなす。

孔子に至りて完成せる儒敎の第一義諦は或は仁に在るが如く或は中庸に在るが如く或は禮に在るが如くなりと雖、其の政治學方面より論究すれば必ず禮を以て最根本的となさゞるべからず。孔子は法刑を以て天下國家を始めんとせば民免れて恥なく奸智の徒を增加せしめ民心浮薄に赴くのみなり。寧ろ禮を以て社會に節制を附與し嚴重なる秩序を定むるに如かず。禮能く行はれて而して上下の分定より長幼の序明に秩序整然として國家自ら治まるものと信せり。何となれば法刑の行はるゝは少數なる官吏の力に依れ共社會の秩序は社會全部が之が維持を努むればなり。儒敎の是の主義は李朝の國初より採りて以て立國の大經となせし所にして之を正名分と稱し君臣、官民、士類吏屬、常民、賤類の區分を嚴にし施きて父子、兄弟、夫婦、嫡庶、長幼、師弟の秩序に及ぼし、理論を離れて單的に國家治道の大綱として必ず臣民をして遵守せしめたり。歷

代往々士民の別嫡庶の分過劇なるを論ずる者出づと雖、常に正二名一分の傳習的主張に係りて擊破せられて用ひられず遂に朝末に至れり。

されば兩班が使命常民を抑壓侵漁せる事彼が如く甚しかりしと雖士族の憑藉する所は常に常民の秩序紊亂に在り。些細なる事を取上げて附衍曲論して以て各分を蔑みすとなし、縱に監禁し科料を課せり。此の口實に對しては何者も抗する能はざるなり。儒教には元來天賦人權個々人格の思想卽四民平等の親念を缺き、ありの儘の國家社會の狀態に卽きて之を無事に治めん事を主とせり。されば教育の如きも上中流の社會級に限り、上流中流の間に在りても自ら教育に差別あり。下民は知識進歩の希望永遠に杜絕せらる。是れ亦國家の秩序維持の政策には缺くべからざる用意なり。下民は既に禮則に於て兩班に絕對屈伏せしめられ今又知識學術に於て全く及ぶべからず。從順ならざらんと欲するも得べけんや。されば朝鮮五百年平民が官府の壓迫に對して敢て反抗の旗を擧げしは李太王の甲午年東學黨の蜂起の外見るを得ず。此も單純なる平民の發憤的蜂起には非ず外に信教を迫害せられたるに激せる殉教的精神をも加味せり。朝鮮人は强力者より加へらるゝ壓迫には甘むじて服從すれ共變更に向ひては不平を言ふことを敢てす。朝鮮人を治むるには斷乎たる威嚴ある簡單なる法令を以てし、一度發布すれば變更せざるを妙諦とす。法令に變更多きは彼等をして心服せしむる所以に非るなり。

10、樂　天　的

此に樂天的と云ふは人生生活の三大要素たる衣食住の不足に對して勞心苦慮する事極めて輕微にして生存競爭烈しき文明社會の人民より視れば殆ど世間の憂を知らざるが如き精神狀態を有するを指すなり。朝鮮人の樂天的なるは其の容貌に於て既に之を見るべし。又人は醉ひて其の本心を曝露する者なり。朝鮮の上中下流押し並べて醉倒せる際の無憂樂天的なるは到底之を日本人に見る能はず。而も其の飲用する所の酒類の多くは糟臭き濁酒ならざれば頭痛を惹起する最下品の新酒にして日本人之を飲さば惡醒を取るに過ぎざるものなり。人生の短き生涯を憂ひて過すも一生無憂樂天的に過すも一生なり。憂ひて事の成る場合もあれ共憂愁と事の成否とは無關係なる場合寧ろ多し。故に曰く憂を知らざる者は幸福なりと。朝鮮人は確に是意味に於て幸福なり。

兩班の多くは今日貧乏なれ共上代と雖總ての兩班の富裕なりしにはあらず。數代失勢せる兩班は往々一函の書一件の衣の外何物も有せざる事あり。されば共彼等は能く此に處して晏如たり。炊烟屢次絶つも端坐して琅々として讀書し貧の骨に徹するを知らざるもの、如し。されば朝鮮人全般を通じて極貧の爲絶食する事を他人に語りて恥とせざる風習あり。是れ到底日本人に了解すべからざる心理狀態なり。武士は食はぬど高揚「子といふは食ふの擬似をなすの意にして決して食はれざるを他に公表して平氣なるの謂に非ず。貧を掩はん事に苦心するが故に日本人の貧を感ずるや深刻なり。貧餓は人間の常事なりと思ひ做すが故に朝鮮人は之を人に語ることを恥ざるなり。余は往々朝鮮人が學家移轉するを目擊す。其家財の輕少なる實に憫笑を禁ずる能

はず。夫負機(チゲ)に鍋釜と蒲團二三枚と松薪一二把を負ひ、婦は家族の全衣裳を包みて頭に戴せ、左手に童孩の手を牽きて志す所に赴く。予は日本の簡易生活者流の移家するを多く見ずと雖苟も夫婦子供ある一家として如何なる心理狀態に於て斯くも枵然として空虛なる生活を營み得るかを訝らざるを得ず。是は實に樂天性を以て解釋するの外なきなり。

斯かる樂天的特性の發生せる原因如何。第一には朝鮮人の氣長き性分を數へざるべからず。短氣なる人程情の興奮に堪へ得ざるものなり。怒あれば怒に負け、憂あれば憂に負け、悲哀に負く。怒りて怒らざるが如く憂へて憂へざるが如く悲みて悲まざるが如きは卽氣長き人の擅場なり。自殺腹切は日本人の特徵にして朝鮮人は其の何故に此の已甚に出るかを解する能はざるなり。又朝鮮人學校に於て爭鬪の甚だ稀なるも亦同じ理由を以て解釋すべし。されば朝鮮人も衣食住の窘塞を憂へざるに非ず。憂ふれ共憂を感ずる事緊切ならざるなり。若し絕對に憂ふる事なくんば卽精神異狀者なるのみ。

第二には處々安分に在り。夫れ人の希望野心は其の生國の規模に由りて量に大小の差あるものなり。朝鮮の如く眇乎たる半島國にして終始支那を大國と稱して自ら小國を以て處れる國民は到底大なる生活欲を享有する事難し。其の天賦の器局に於て大なる富貴榮華を容るゝ事なし。自ら蝸牛が殼を以て城廓となし事あれば內に縮まりて得々たるが如き小分に安ずる性質を養成せしめらる。安分者は憂少し煩悶なし。與へらるゝが儒に受けて强いて我意を以て求めず。若し何物も與へらるゝ事なきも恰も蝸牛が殼ながら靜に餓死するが

如くならんのみ。今の男女の厭世は總べて生活欲の昂進して而して之を滿足する能はざる所に生ず。安分知足なる朝鮮人が樂天的なるは宜なり。

第三從來朝鮮人生活の緊張せる如くにして其の實尙餘裕ありて今日文明國に見るが如き生活難存在せざりしが爲なり。兩班は李太王の甲午年前科擧制度の行はれし間は科擧に及第すれば一生の生活問題を解決せるものにして坐して生活資料を得べし。科擧に及第せざるも其々家柄の格ありて地方官吏土豪よりの仕送に飢凍を免るべく、我が恃む所は家柄と文學なれば能く貧窮に處して屈せず讀書研學すればいつかは一陽來復して世に出るの時來るべく今の窮は聊も憂ふるに足らざるなり。中人は中人、吏屬は吏屬各階級に屬する特權あれば家業を襲ひて働けば衣食には窮する事なし。加ふるに一族相扶養するの習慣ありて同族中一人成功する者あれば倚りて食ふに憂なし。常民は誅求甚しと雖錢を剩し富を造らんと欲せざれば我腹を滿すに妨なし鄉に鄉約あり、親族に互助法ありて、以て四面八方より個人の生活を扶持して餘裕あらしむ。されば甲午以前迄の朝鮮鄉鄙の風俗を觀れば錢こそなけれ敦厚にして施與を惜まざる美風甚多し。苟も一鄉に生ひ立てば不道德を敢てして鄉黨に逐はれざる限相當の年齡に達すれば鄉人の助力に倚りて一家を成すを得しものなり。而して斯の如き餘裕ある生活を享有するは獨り朝鮮に限らず儒敎を以て國を治むる農本主義を執る國家に共通なる長所なり。

第四には貧乏馴れたるの致す所と視るを得べし。上來屢述する如く朝鮮人民の大多數なる常民全部は如何

に働くとも富有を致す事能はざる境遇に在り。貧乏は普通なり當然なり。之を意に介せんと欲するも能はざるなり。今年に來年の計なきは勿論、今日に明日の計を考へず。聞く人は一度乞丐の群に入れば再度脱することを喜ばざる者なりと。世に乞丐程衣食住に關して樂天的なるものはあらず。希臘のヂヨゲネスは哲學的思索を重ねたる極乞丐の生活を躬行して亞歷山大帝の世界征服の大野心を笑へり。朝鮮人の樂天性はヂヨゲネスの學說と歸趣を同じうすと謂ふべし。

第三　餘　論

以上叙し來れる十種の中思想の固著と從屬卽事大主義とは恐らく朝鮮人の最根本的なる二大特性ならん。既に千年以上一貫して恒に朝鮮の思想及信仰に特色を賦與し來れるは卽是二特性なり。是は朝鮮人が是土に住する限永く其の特性たるべし。縱令一時外來の勢力の爲に動搖して日本人の如く常に新奇を探求するかの如く見ゆる事ありとも其は斷じて一時の變潮なり。久しからずして新思想中の或物を選擇して之に固著し固著せる儘數百年を經過せん。然らば現今朝鮮人は何等か新に固著する思想を有するか。予は未だ之を發見する事能はず。今朝鮮人の生活は大暴風に逢ひて蕩漂しつゝあるが如し。其の鎭定する迄は尙幾許かの星霜を積まざるべからず。朝鮮人の思想が全部儒敎殊に程朱の思想の飜寫にして一の朝鮮的思想なきも亦千年以上の事實なれば何か之に代はる新思想の與へられざる限當分儒敎の權威は絕滅せざるものと見ざるべからず。

儒教は單に道德學政治學として朝鮮人の心を支配せるのみならず社會全部を擧げて其の教義の範型に入れて鎔冶せり。何物も短時日の間に之を顚覆すること能はず。但だ今や各學校に於て漢文の價値が生徒に輕ぜらるゝ事年一年に加はり、又日本人教師も漢文を解する者多からず。身を以て漢文の新生活に不必要なるを實示しつゝあり。斯くて十數年を經過し今の學校卒業者が社會の實勢力たるに至らば朝鮮も日本の迹を追ひて漢文は思想に殘りて文籍に忘れられん。是れ朝鮮人が支那思想の拘束より脫せんとする前提なり。然れども儒教の權威衰へて如何なる思想をして代りて朝鮮人を支配せしむべき。朝鮮人には獨創的能力なければ日本人之を與へざるべからず。然らずんば朝鮮人思想界をして復た日本人の今の思想界の如く浮萍の風に波に漂ふが如く歸一する所なきに至らしめん。

形式主義非審美的、文弱、黨派心、公私混淆の六特性は日本の統治の年積もるに從ひ漸次消散せしめらるべき約束の下に在るものなり。少くとも然らずんば日本は朝鮮人に對して扶掖指導の任を盡さずと謂はるゝも辨解の辭なからん。世間往々朝鮮人特性の暗黑面を視て漫に劣等民族となし輕蔑して賤遇して顧みざる者あり。斯かる狹陋にして同情なき心掛にては朝鮮人同化の大業は成就すべくもあらず。朝鮮に在る日本人は朝鮮人が從來惡政の結果養成せしめられたる暗き性質をば善政と優秀民族の感化とに依りて洗除して以て日本人に同化すると同時に民族的に向上せしむるを義務と自覺せざるべからず。殊に官吏者言論者流に於て然りとなす。若し日本人が此の心掛を有する能はずんば日本人は殖民地經營の能力贍らずと曰はるゝも詮方なし。

寛雍、鷹揚、從順、樂天の三者は朝鮮人の美質と視做すべし。朝鮮人の缺陷短所たる性質を洗除すると同時に美質の保存は切に之を勸奬せざるべからず。されば其予は是の三美質は上の六短所の洗除せらるゝ前に早く消滅に歸せんことを恐るゝ者なり。何となれば此の三美質は恰も日本人の缺如する所にして日本人の朝鮮人に與ふる感化は常住之を拂除しつゝあればなり。既に眼前歷々たる事實として兩班の歩行漸く安詳を失ひ烟管の長さ年々減じつゝあるに非ずや。文明は人間生活欲を昂進せしむるが故に安分に因する樂天主義は漸く維持し難く、儒教の權威衰ふれば社會の秩序漸く整齊を缺き、個人の權利思想盛となりて從順の德日に薄らぐ。今後十數年を過ぎなば是の三大美質は或は雲散霧消せんことなきか憂慮に堪へざるなり。

斯く思索し來れば朝鮮人は將來其の特性たりし惡しきも善きも共に喪ひて殆ど特性として捕捉すべきなき中性の民族たる事なきを保せず。中性となり而して後漸次日本人と同一性情を帶ふるに至るべきか。或は舊朝鮮人にもあらず日本人にもあらず一種賤むべき性質を有する新朝鮮人たるべきか。後の學者の研究に俟たざるべからず。

然れ共予は自ら反省し、又日本人の對朝鮮人感情の眞の皷動を聽き、日本人の必ず終に朝鮮人を同化し朝鮮人の終に日本人となるべきを信ぜんと欲す。之を日本人の利益の上より觀て勿論朝鮮人を同化せざるべからず。又朝鮮人の利益の上より觀ても同化せらるべからず。之を感情の上より觀るも日本人の朝鮮人に對する爾他文明國の何者よりも人種的及民族的差別感を懷くこと少し。朝鮮人の生活にも最も善く堪へ得都

市を離れたる邑里に到れば多くの日本人は朝鮮人の構造し居住せる家屋に入りて平然たり。予自身も在鮮十三年中僅に三歳の外は常に朝鮮家屋に住したり。されば老獪巧智なる西洋人宣教師等は朝鮮人に對して温柔憐憫之を愛することと全く無我無差別なる如しと雖是れ其の多くは職業を大切にするより割出されたる勉強なり否寧ろ假扮なり。其の中心の感情を言へば朝鮮人を以て野蠻曚昧にして牛馬と相去る遠からざる人種と極蔑しつゝあること彼等の他人種に對する一般的感情より推して疑ふべからず。之を吾等朝鮮人教育に従事する者の心地に照し考ふるに此に従事せる半載許は師弟相互の理解を缺き往々差別的感情の起るあれども、未幾全く相互に充分に理解して渾然入我々入し決して別民族を教養する感を生せず。師弟共嬉々として春風蕩裡に歳月の經過するを忘る。恐く今の吾等同僚中日本人教育に轉せんと希ふ者は一個半個もあらざるべし。之を彼等西洋人が主宰すと稱する學校に於て校務は殆ど全部之を契約的關係に在る朝鮮人職員に委し、自己は宏壯なる邸宅に住して曾て生徒と接觸するを努めざる者に比すれば斷じて同日の論に非ず。されば如何に時勢に反對する朝鮮人も然らば若し今の日本の位地に代ふるに露、獨、英を以てせば如何と反問せば、誰も今を以て寧ろ朝鮮人の幸福となさゞるはなし。されば朝鮮人と同化すべき者は世界中日本人を以て最も其の資格に富むとなさざるべからず。而して其の事の極難なるは從來叙し來れる特性に就きて分明なり。是れ朝鮮人教化の事業の困難なれ共趣味饒き所以なり。

然れ共予は諸多の實例に照して文明の度低き民族が度高き民族と接觸する時は先づ其長所を受取るよりも

缺點を受取る場合寧ろ多きを信ず。何となれば文明の度高き民族の長所は長き年代を積みて修養努力せる結果得られたる者にして深遠なる根蔕を有し一朝一夕に他の模倣を許さゞるものなり。之に反し缺點は多くの場合長所に隨伴しつゝありて淺く近く前に的歴として極めて容易に模し得べきものなり。書を習ふ者先づ手本の癖を學び得れ共其の法度氣力は決して學び易からざるが如し。日本の明治初年西洋心醉當時の狀態、日本の臺灣統治の初期に於て日本語を操る臺灣人が日本人の缺點のみを模して日本人にも厭忌せられしも亦是理なり。而して日本人は頗る瑕疵多き國民なり。予は朝鮮人が日本人に同化して能く日本人の長所を備ふるに至る前に先づ其の缺點短所を模倣して最下等の日本人たらん事を切に憂ふる者なり。朝鮮人の特性を叙するに當り餘論として附記す。

第四　後論

朝鮮特性の研究は四年前の稿に係る。爾來朝鮮の自然現象に於ては格別の變化を見ざるも朝鮮人の心理現象に於ては著明なる變潮を顯はし人或は今の朝鮮人を視て四年前の其とは別種に屬するやの若くなすあり即大正八年三月飄風の如く突發せる獨立運動を原動力として人心宛ら大波濤の洶湧するが如く老壯幼少を問はず士農工商を論ぜず有識無識の別なく大部分は排日思想の洗禮を受けたるを見る。而して其の運動多少の準備あり組織あり主謀者に多少の膽氣あり熱血あり爲に動搖し易き特性を有する日本々國の朝鮮統治に對す

る輿論にも一震動を與へたるの觀あり。然れとも予は深く當時の實情並に爾後の事態に鑒みて大體に於て本編結論を變更するの必要を見ざるものなり。

人或は昨年獨立運動勃發に由りて朝鮮人の特性に從順の一目を立つるを非難するものあらん。然れども昨年の如き時局に當り昨年の如き計畫の下に立たしめられては如何に從順なる民族なりとも彼許りの運動に出づるは當然なり。一度長く包みたる本心を吐露して彼の如き運動を敢行すれば其の餘災の尙今日まで殘りて種々不穩の事件の發生するも亦又當然なり。卽昨年春の獨立運動は朝鮮域外に在りて他社會の思想並に感情に感染せる青年等が常住心裡に抱ける希望寧ろ空想をば實現すべき機會到來せりと輕率に妄信し、先覺者新知識顏して在鮮青年乃至事を好む宗敎團員等に向て其の單なる妄信をば可能的なるが如くに宣傳し、而して彼等在鮮の青年及宗敎團員は更に其の度を進めて旣成的なるが如くに之を一般無知曚昧井底蛙の生活を送る都鄙民衆に向て宣傳し。斯くて力的には非常に弱きも量的には頗る大なる彼の朝鮮獨立運動を起すに至れるなり。例へば平素虎の至るを恐怖しつゝある山村無智の氓が一朝幻覺的に叫ばれたる猛虎來の聲に驚きて眞に大虫現はれたりとなし門を閉ぢ戶を塞ぎて戰慄するに似たり。但し彼等最初の宣傳者が輕々に朝鮮獨立の事必ずしも不可能にあらずと速斷せるは世界大戰爭の終局に當りて一時的に東西弱國民劣敗民族間に起れる利己的思想にして必ずしも朝鮮青年のみを責むべきにはあらず。而して是の實理を無視せる謬見に基く妄信を可能的なるが如く更に進みて旣成的なるが如く民衆に宣傳するに當りて某大國の援助を暗示し又は明示す

るに至りては予が本編に於て朝鮮人特性に最根本的なるものとして擧げたる思想の從屬卽事大主義の顯著なる發露にして、今や朝鮮青年の或部分は昔時の朝鮮人が支那思想に從屬し支那に向て事大主義を執りたると同樣に亞米利加思想に從屬し亞米利加に向て事大主義を執らんとしつゝあるなり。是れ實に朝鮮人の新羅以來の最大特性を田地として發生成長する思想問題なる以上、將來の我が朝鮮統治に對して絕大なる脅威不安を提供するものなり。而して是れ朝鮮に於て日本人の手に由り誤らざる日本人の思想を通せる敎化施設が統治百年の長計たる所以なり。

兎に角昨年の獨立運動なるものは上述の經緯に由り起れるが故に格別に朝鮮人の從順性を取消すに足る立證的事件とは視做す能はず。顧れば運動其ものの殺伐にして雄武なりしもの明治四十年日韓新協約に憤慨して起れる所謂義兵の騷擾あり。當時は世界の視聽日本に集まること今日の如くならざりしが故に義兵事件に對しても其の鎭壓の爲に執りたる日本兵の處置に對しても格別世論囂しきに至らざりしも爲に如何に日本人が生命財產に不安を感せしか如何に朝鮮の半以上が騷亂狀態に陷れるか。實に一時は京城東大門外一里の處まで半武裝せる義兵の一隊攻來りしなり。是が鎭壓に向へる日本兵も當初は奔命に疲れて效果擧らず無氣力なる村民等は簞食壺醬して義兵を迎ふる有樣にて何日か果して是騷擾鎭定するかと一同痛憂しつゝありしに滿二年餘にして消えて迹なく全村擧げて匪徒たりしと云ふ不逞村も盡く歸農して良民となり喘々として官府の命に違はざらんことを之れ恐るゝ狀態となれり。但し義兵の騷擾は南鮮儒生を中心とし國外との連絡なか

るしに今回の運動は平安道を中心とし更に國外との連絡密なり。是點に於て一層深刻にして耐久的性質あり。されども平安道人なりとて其が陰忍慓悍なりと云ふは他道朝鮮人との比較に於て言ふべきのみ日本人と比較する時は尚從順の範圍を脱せるにはあらず。朝鮮人の人國記に曰く京畿道、忠清道人は鹿なり全羅道人は狐なり慶尚道人は狗なり咸鏡道人は熊なり而して平安道人は虎なりと。若し日本人と比較すれば朝鮮人全體として猫にして日人は猛犬なりと謂ふべし。李朝五百年間平安道人は叛骨ありとなして文武の官途に任用せず常に湖洛嶺南出身官吏の誅求壓迫の下に泣けり、而かも平安道人が團結して立ちて是の不公正なる虐遇に抵抗せるを聞かず。反りて腰絡萬金京城の勢家に出入して位階を購ひ空啣を買ひて得々として鄉里に歸る者比々多く是なり。今平安道の久しく秩序回復に苦むは平安道人の慓悍陰忍なるに原因するよりも耶蘇教の隆盛なると滿洲間島に在る不逞團の煽動とに多く原因す。滿洲間島に在る鮮人は既に家を棄て親戚を離れ心荒れ情硬く弱肉强食の生活を送るが故に朝鮮人たる性質の如きも多く之を遺失せり。彼等が平安道に潛入して不逞を働くは獨立運動の意義を離れて營利的職業的にも多くあり得べき事なり國境警備の別組織を立つるを要する所以なり。

予は朝鮮人特性に鑒みて今の有形無形不安定の狀態は久しからずして往年の義兵の騷動の其の如く忽然として迹を歛め忘れたるが如く鎭定し再度親日的氣分の一般に漲る時期の到來するを信ず。朝鮮人は自己の心柄より斯く官憲より警戒的に視られ內地人に對しては勿論彼等間にも心置かるゝ不安なる生活は其性情に於

て元來喜ばざる所にして秩序を守りて其々の分内に於て安らかに生活して始めて性質に協へる滿悅を感ずればなり。但し予は是に由りて決して朝鮮人が叛心獨立を希望せず又日本の統治に心服すと云ふにはあらず。嚮きに固着性の項に於て述べたるが如く朝鮮が其の新羅以來千五百年の歷史に於て政治的に强力なる外國の制を受けしは高麗の元宗元年より恭愍王の初年迄前後百年餘なり。當時如何に善く高麗上下が擧げて元朝に臣服せるが。國王は元帝の公主に尙し高麗の妙婦淸女は連々相率ゐて元朝の高位大官の婦妾となり麗朝文臣は元に赴きて科擧に及第し元の官位を受け高麗の服制盡く元制に改まり高麗の名僧は渡元して法を元僧に嗣き人も物も一個半個として元に對して不服を言ふ者なきに似たり。然るに恭愍王十八年明太祖朱元璋の卽位の璽書至るや忽然として元の服制を捨て元の正朔を罷め遽々焉として明の屬國となれり。高麗は元制を受くる百年間實は元の干涉政策を厭ひ元が胡を以て漢を滅せるを憤れるなり。而して是の眞感情は之を對元言動に表さず元朝亦終に高麗叛情の機微を覺らず。明は朝鮮に對して恩惠の裕なる前後比肩すべきなし。史家の說に據れば文祿の役に於ける明朝の徹底的朝鮮援助は明自身の國力を傾け遂に其の滅亡の遠因の一となれりと云ふ。されば朝鮮の明に事ふるや慇懃恪實を極め叛情より之に臣服せり。然れども愛親覺羅氏の旗風中原を靡偃するや忽ち李朝君臣に貳心を生じ稍もすれば明情兩端を持せんとし。終に仁祖丙子の役南漢山城に於て降伏し國を擧げて淸の臣となり縱令爾後節を明朝の爲に守を多少の儒臣等出でしと雖大勢を動かすに足らず、以て李太王甲午年日本に依りて獨立國たらしめられし迄表面屬國として禮儀を盡せり。是れ卽朝鮮の事大主

義なり。されば今後相當の期間朝鮮が極めて靜穩となり政治に悅服せりとて妄りに安心し豫泰なるべからず又時に復た波瀾を捲起し物情洶湧たるを見ることありとて日本の國力に自信ある限周章狼狽して統治の方針を變更するの必要あらず。

予は本編末項に於て朝鮮人が其の心情一部日本人化し又は一部亞米利加化して而かも日本人にはあらず亞米利加人にはあらずなるは最も朝鮮の爲にも又日本の爲にも憂ふべしと述べたり。而して昨年の騷擾の中心は實に是等半日本化鮮人、半米化鮮人に在りき。而かも爾後內地に留學する青年愈々多く米國敎會に出入する者益々其數を加ふ。現今日本に於ける所謂思情問題は半西洋化せる日本人を中心として起りて動もすれば國家社會の秩序を紊さんとしつゝあり。半日本化せる朝鮮青年は更に半西洋化せる日本人に半化して之を受賣して以て朝鮮思想界を混亂せしむるなり。是の意味に於て半日本化せる鮮人と半亞米加化せる鮮人とは氣脈一線相通する所のものあり。彼等は共に破壞的なり、誤れる自覺者なり、煽動的なり、社會及個人の進步の順序を無視するなり。將來朝鮮人幸福を沮碍する張本人は實に彼等なり。朝鮮百年の大計は如何に現在の彼等を處分し如何に將來如是種鮮人の發生を防遏せんかに存す。

然れども獨立運動勃發してより玆に約二ヶ年幾多の實證と體驗とは新しき朝鮮人等さへ其の希望の畢竟空想なるを覺知するに充分なりき。今や彼等は知識的判斷に於ては到底獨立の不可能なるを認むるに躊躇せず但だ殘る所は感情に於て尙獨立を望み又現狀に對して反抗せんとするなり。されば朝鮮統治は今や知識的施

設に最重さを置くよりも感情的施設に就て工夫を凝らすを要する時代に向へり。換言すれば知識が感情の支配の下に立つ施設。所謂「ハート」文明を促進する施設を立てゝ以て彼等の對日感情を融和せしめ感情に於ても獨立を遺棄し内鮮根本義に歸依せしめざるべからず。

感情的施設、「ハート」文明の促進とは何を謂ふか。最廣を意義に於ける教化的施設に外ならず。即宗教及教育是なり。宗教は知識の程度低き社會程其の教化的勢力著大なれば朝鮮に於ける宗教政策の價値は内地の其よりは遙に大なり。今や朝鮮宗教的施設を擧げて之を米人、半米化朝鮮人及政治趣味の强烈なる朝鮮人に一任して顧みざるは眞に臥榻の傍他人の酣睡を容るるものなり。内地宗教家の蹶起を促して止まず。朝鮮教育制は之を内地の制度と比較すれば殆ど原始時代に在りと謂ふを得べし。若し朝鮮に於て完全なる教育制度確立せられなば現在の彼等半日本化青年及半米化青年の大部分而かも最優秀者は或は官吏として或は實業界の人として能く内地人と歩調を合して朝鮮を正しき道に進ましむる事功を分擔したる者なり。有力なる味方を逐ひて有力なる敵たらしめたるなり。朝鮮知識階級青年の感情を穩和にし安定にし内鮮融和の基礎石を据うるは彼等の滿足する教育をば誠心誠意にして學識豐富なる内地人教育家に由りて之を授け其の卒業者をば或は朝鮮に於て或は内地に於て材能に從て官界に民間に使用するより以上有力なる方法なし。勿論如何に教化的施設を盛にせりとて若干不穩青年の出るは勢の免れざる所又時に純鮮人本位の運動の起るも亦あり得べしされども其等不穩青年の數たるや必ず現在に比して非常に少かるべく、其の純鮮人本位の運動なるや必

ず合理的にして内鮮關係の根本軌道を脱線するが如きことなく譬へば待遇問題の如きものなるべく特に朝鮮のみに限りて起る種類は稀なるべし。而して若し是の如き宗教的施設是の如き教育的施設卽同情、博愛。等最美しき人類感情の源泉より流れ出づる所の教化を施して、尙青年等が依然として亞米利加の文化を慕ひ亞米利加人に敬服し、陸續として米人の傘下に馳せ參するが如くんば、是れ眞に日本文化の根蔕なく力なきにして是に至りては誰をか咎めん

大正九年十二月二十一日後記

大正九年十二月三十日

朝鮮總督府學務局

朝鮮印刷株式會社印刷

廢棄
196.5.9
國會圖書館